

学校における救命活動に関する調査  
—A E Dの使用を中心として—

結 果 報 告 書

令和 2 年 3 月

近畿管区行政評価局

## 前 書 き

心停止事故が発生した場合、救急車到着を待っていたのでは9%の者しか救命できないが、救急車到着までに心肺蘇生を行い、更にAEDを使用することで、半数以上の救命が可能になるとされる（公益財団法人日本AED財団のウェブサイトから）。

学校保健安全法（昭和33年法律第56号）では、学校設置者は、児童生徒等に危害が生じた場合に適切に対処できるよう、学校の設備や管理運営体制の整備充実に努めるとされ、文部科学省が全国の国公立の学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校等）を調査した結果によると、平成27年度末には90%以上の学校にAEDが設置（予定を含む。）されている。

しかし、公益財団法人日本学校保健会の調査報告書（平成30年3月）によると、いまだに、学校管理下において心肺蘇生やAEDの装着が行われず、児童生徒が死亡するケースがあるとされ、学校現場では、救命活動が必ずしも適切に行われていない状況がうかがえる。

一方、一般財団法人日本救急医療財団が策定した「AEDの適正配置に関するガイドライン」（平成30年補訂版）によると、AEDがあったにもかかわらず、使用されない事例があり、心停止例の救命率を向上させるためには、従来以上に心肺蘇生講習会を積極的に展開し、AEDを用いた心肺蘇生を行うことができる人材を増やす必要があるとされている。

今回、当局は、子供の命を守る観点から、学校において、「AEDが迅速・確実に使える配置・状態となっているか」、「教職員等が連携して迅速・適切に救命活動を行えるか」について調査した。併せて、誰もがAEDを使用できる社会を推進する観点から、「児童生徒等が救命活動に関する知識や方法を学んでいるか」についても調査した。

調査に当たっては、当局職員が管内の3府県（大阪府、兵庫県及び奈良県）に所在する国公立学校21校に出向き、AEDの配置場所と心停止発生リスクの高い施設との位置関係等を現認するとともに、教職員による救命活動体制の現状や課題についてヒアリングしたほか、実際に学校で心停止事故が発生して救命活動を行った教員から当時の状況を聴取した。

本報告書は、これらの調査結果に基づき、課題や工夫している取組を取りまとめたものであり、学校における救命活動体制の整備や、誰もがAEDを使用できる社会の推進の一助となれば幸いである。

最後に、本調査には、上記の学校のほか、大阪府、兵庫県及び奈良県内に所在する3国立大学法人、8教育委員会、本件に造詣が深い京都大学の石見 拓 教授、金沢大学の太田 邦雄 准教授、兵庫県立尼崎総合医療センターの西内 辰也 ER総合診療科部長のほか、特定非営利活動法人大阪ライフサポート協会にも御協力をいただいた。この場をお借りして感謝申し上げる。

令和2年3月

近畿管区行政評価局長 清水 正博

※ AED：自動体外式除細動器（Automated External Defibrillator）  
心室細動（心臓が細かく震え、血液を送り出せなくなる不整脈）の際、自動的に心臓の動きを解析し、必要な場合に電氣的なショック（除細動）を与え、心臓の働きを戻す医療機器

## 目 次

|                                                 | 頁  |
|-------------------------------------------------|----|
| 第 1 調査の目的等 .....                                | 1  |
| 第 2 調査結果 .....                                  | 3  |
| 1 学校における A E D の使用状況等 .....                     | 3  |
| 2 A E D が迅速・確実に使える配置・状態となっているか .....            | 6  |
| (1) A E D の配置場所 .....                           | 6  |
| (2) A E D の配置場所の掲示及び周知 .....                    | 10 |
| (3) A E D の移動 .....                             | 12 |
| (4) A E D の維持管理 .....                           | 14 |
| 3 教職員等が連携して迅速・適切に救命活動を行えるか .....                | 17 |
| (1) 危機管理マニュアル、シミュレーション訓練 .....                  | 17 |
| (2) 教員に対する心肺蘇生や A E D の使用に関する研修 .....           | 21 |
| (3) 児童生徒等に対する心肺蘇生や A E D の使用等に関する知識や技能の普及 ..... | 25 |
| 4 地域住民等が学校の A E D を使用できるか .....                 | 28 |

## 図 表 目 次

### 第 1 調査の目的等

図表なし

### 第 2 調査結果

#### 1 学校における A E D の使用状況等

|                                                         |    |
|---------------------------------------------------------|----|
| 図表 1-1 「学校における心肺蘇生と A E D に関する調査報告書」にみる A E D の使用<br>状況 | 30 |
| 図表 1-2 調査した 5 件の心停止事故の発生場面等                             | 31 |
| 図表 1-3 実際に救命活動を行った教員の意見                                 | 31 |

#### 2 A E D が迅速・確実に使える配置・状態となっているか

##### (1) A E D の配置場所

|                                                       |    |
|-------------------------------------------------------|----|
| 図表 2-1 「第 2 次学校安全の推進に関する計画」(抜粋)                       | 33 |
| 図表 2-2 「自動体外式除細動器 (A E D) の適正配置に関するガイドラインの補訂に<br>ついて」 | 34 |
| 図表 2-3 「A E D の適正配置に関するガイドライン」(抜粋)                    | 35 |
| 図表 2-4 調査した学校設置者が把握していた学校の A E D 設置状況                 | 36 |
| 図表 2-5 調査した学校における A E D の配置場所                         | 36 |
| 図表 2-6 A E D の運搬に片道 1 分以上要するとみられる事例 (奈良高専)            | 37 |
| 図表 2-7 A E D の使用に時間を要するおそれがある事例 (明石高専)                | 37 |

##### (2) A E D の配置場所の掲示及び周知

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 図表 2-8 掲示がなく A E D の位置が分かりにくい事例 | 38 |
| 図表 2-9 A E D の位置を分かりやすく掲示している取組 | 38 |

##### (3) A E D の移動

|                                    |    |
|------------------------------------|----|
| 図表 2-10 「学校の危機管理マニュアル作成の手引」(抜粋)    | 39 |
| 図表 2-11 校内で A E D を運動の場面に移動させている取組 | 39 |

##### (4) A E D の維持管理

|                                                                           |    |
|---------------------------------------------------------------------------|----|
| 図表 2-12 「自動体外式除細動器 (A E D) の適切な管理等の実施について (注意喚起<br>及び関係団体への周知依頼)」の別紙 (抜粋) | 40 |
| 図表 2-13 「A E D の適切な管理等の実施に係る Q & A」(抜粋)                                   | 41 |
| 図表 2-14 「A E D の点検、ここがポイント」(抜粋)                                           | 41 |
| 図表 2-15 A E D の日常点検が未実施又は不十分な事例                                           | 41 |
| 図表 2-16 A E D のバッテリー、電極パッドの使用期限を超過している事例                                  | 42 |
| 図表 2-17 バッテリー、電極パッドの使用期限の超過理由                                             | 42 |
| 図表 2-18 A E D の耐用期間を超過している事例                                              | 42 |
| 図表 2-19 耐用期間の超過理由                                                         | 43 |
| 図表 2-20 A E D の耐用期間を表示ラベルにより管理している取組                                      | 43 |

### 3 教職員等が連携して迅速・適切に救命活動を行えるか

#### (1) 危機管理マニュアル、シミュレーション訓練

|         |                                       |    |
|---------|---------------------------------------|----|
| 図表 3-1  | 学校保健安全法（抜粋）                           | 44 |
| 図表 3-2  | 「学校事故対応に関する指針」（抜粋）                    | 44 |
| 図表 3-3  | 「学校の危機管理マニュアル作成の手引」（抜粋）               | 44 |
| 図表 3-4  | 危機管理マニュアルの内容やシミュレーション訓練の必要性に関する有識者の意見 | 44 |
| 図表 3-5  | シミュレーション訓練を実施している理由                   | 45 |
| 図表 3-6  | シミュレーション訓練の様子                         | 45 |
| 図表 3-7  | A教委管内の学校におけるシミュレーション訓練の実施方法           | 45 |
| 図表 3-8  | シミュレーション訓練により判明した課題と改善措置              | 46 |
| 図表 3-9  | A教委管内の学校におけるシミュレーション訓練後の検証により判明した課題   | 52 |
| 図表 3-10 | 「体育活動時等における事故対応テキスト～A S U K Aモデル～」    | 53 |
| 図表 3-11 | プールに電話を設置し、迅速な連絡を可能としている取組            | 56 |

#### (2) 教員に対する心肺蘇生やA E Dの使用に関する研修

|         |                                       |    |
|---------|---------------------------------------|----|
| 図表 3-12 | 学校保健安全法（抜粋）                           | 57 |
| 図表 3-13 | 「応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」（抜粋）          | 57 |
| 図表 3-14 | 心肺蘇生、A E Dの使用に関する一般的な研修内容             | 58 |
| 図表 3-15 | 調査した学校における実技研修の実施頻度（平成 28 年度以降）       | 59 |
| 図表 3-16 | 3 年以内に未受講の教員が発生している 12 校における教員の研修受講状況 | 59 |
| 図表 3-17 | 3 年以内に未受講の常勤教員が発生している理由               | 59 |
| 図表 3-18 | 学校による実技研修の開催方法が不適切な事例                 | 60 |
| 図表 3-19 | 教員に応急手当普及員の資格を取得させている取組               | 60 |

#### (3) 児童生徒等に対する心肺蘇生やA E Dの使用等に関する知識や技能の普及

|         |                           |    |
|---------|---------------------------|----|
| 図表 3-20 | 「提言 学校での心臓突然死ゼロを目指して」（抜粋） | 61 |
| 図表 3-21 | 心肺蘇生等の実技について工夫している取組      | 61 |
| 図表 3-22 | 小学校における救命活動に関する学習内容       | 62 |

### 4 地域住民等が学校のA E Dを使用できるか

|        |                              |    |
|--------|------------------------------|----|
| 図表 4-1 | 「A E Dの適正配置に関するガイドライン」（抜粋）   | 63 |
| 図表 4-2 | 財団全国A E Dマップ                 | 63 |
| 図表 4-3 | 夜間休日にも使用できるようA E Dを屋外に移設した取組 | 64 |
| 図表 4-4 | 校内案内図にA E Dの配置場所を表示している取組    | 64 |

## 第1 調査の目的等

### 1 目的

この調査は、学校におけるAED(自動体外式除細動器)の設置状況、救命活動に関する研修・訓練及び知識や技能の普及の状況等を調査し、児童生徒等の安全確保と、誰もがAEDを使用可能な社会の推進に資するため実施するものである。

### 2 対象機関

#### (1) 学校設置者(11 機関)

- ① 国立大学法人(大阪教育大学、神戸大学、奈良女子大学)
- ② 教育委員会(大阪府、兵庫県及び奈良県内の教育委員会 8 機関)

#### (2) 学校(21 校)

- ① 国立大学附属学校(6 校)  
大阪教育大学附属池田小学校、平野中学校  
神戸大学附属小学校、中等教育学校  
奈良女子大学附属小学校、中等教育学校
- ② 国立高等専門学校(2 校)  
明石工業高等専門学校、奈良工業高等専門学校
- ③ 公立学校(13 校)  
大阪府、兵庫県及び奈良県内の小学校 5 校、中学校 5 校、高等学校 3 校

※ 一部の調査項目については、19 校(国立大学附属学校(6 校)、国立高等専門学校(2 校)、公立学校(11 校))とした。

#### (3) 関係団体等

- ① 有識者(五十音順・敬称略)  
石見 拓(京都大学環境安全保健機構健康管理部門/附属健康科学センター 部門長・教授)  
太田 邦雄(金沢大学医薬保健研究域 医学教育研究センター 准教授)  
西内 辰也(兵庫県立尼崎総合医療センター ER 総合診療科部長)
- ② 関係団体  
特定非営利活動法人大阪ライフサポート協会

### 3 担当部局

近畿管区行政評価局

### 4 調査実施期間

令和元年 10 月～2 年 3 月

(注) 本報告書では、対象機関の名称について、以下のとおり略称で記載している。

| 対象機関  | 機関名                            | 略 称    |
|-------|--------------------------------|--------|
| 学校設置者 | 国立大学法人大阪教育大学                   | 大教大    |
|       | 国立大学法人神戸大学                     | 神大     |
|       | 国立大学法人奈良女子大学                   | 奈女大    |
|       | 都道府県教育委員会<br>市町村教育委員会          | 教委     |
| 学 校   | 大阪教育大学附属池田小学校                  | 大教大池田小 |
|       | 大阪教育大学附属平野中学校                  | 大教大平野中 |
|       | 神戸大学附属小学校                      | 神大附属小  |
|       | 神戸大学附属中等教育学校                   | 神大中等校  |
|       | 奈良女子大学附属小学校                    | 奈女大附属小 |
|       | 奈良女子大学附属中等教育学校                 | 奈女大中等校 |
|       | 独立行政法人国立高等専門学校機構<br>明石工業高等専門学校 | 明石高専   |
|       | 独立行政法人国立高等専門学校機構<br>奈良工業高等専門学校 | 奈良高専   |

## 第2 調査結果

### 1 学校におけるAEDの使用状況等

| 調査結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 図表番号          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| <p><b>【制度の概要等】</b></p> <p>(1) <b>心臓突然死の発生状況</b></p> <p>日本では、年間約 7.9 万人（1 日約 200 人）が心臓突然死で命を失っており、学校（小学校、中学校、高等学校、高等専門学校及び特別支援学校）では、平成 26 年度から 30 年度までに 50 人の児童生徒、学生が心臓突然死している（公益財団法人日本AED財団の資料及び独立行政法人日本スポーツ振興センターの「学校の管理下の災害」による。）。)</p> <p>(2) <b>AEDの効果</b></p> <p>公益財団法人日本AED財団の資料によると、心停止事故が発生した場合、AEDによる電気ショックが 1 分遅れるごとに救命率が 10% ずつ低下し、救急車到着（119 番通報から平均 8.7 分）を待っていたのでは 9% の者しか救命できないが、救急車到着までに心肺蘇生を行うことで 2 倍、更に AED を使用することで半数以上の救命が可能になるとされている。</p> <p>(3) <b>学校における AED の使用状況等</b></p> <p>① 公益財団法人日本学校保健会の「学校における心肺蘇生と AED に関する調査報告書」（平成 30 年 3 月）によると、平成 24 年度から 28 年度までに、公立学校（小学校、中学校、高等学校、義務教育学校、中等教育学校及び特別支援学校）では、670 校（726 人）で AED のパッドが貼られ、249 校（250 人）で AED の電気ショックボタンが押されるなど、「児童生徒の心停止は、まれなケースではない。」とされる。</p> <p>② 一般社団法人日本循環器学会 AED 検討委員会の「提言 学校での心臓突然死ゼロを目指して」（平成 27 年 1 月）では、「学校内への AED 設置が進展し、不測に生じた生徒の心停止から救命される事例が増えつつある。その一方で、AED が設置されていたにもかかわらず、それが適切に使われずに失われた命も少なくない。」、「一般に若者ほど心停止からの救命率が高いことが知られているが、心停止の瞬間が目撃されやすく、周囲に人手も多い学校内においても、周知の準備、日ごろからの訓練、緊急時の連携体制などの整備によってさらに高い救命率が期待できる。」とされている。</p> <p><b>【調査の結果】</b></p> <p>当局が学校設置者 11 機関及び学校 21 校を対象に、AED の使用状況及び救命活動の実施状況を調査したところ、以下のような状況がみられた。</p> <p>(1) <b>救命活動の実施状況等</b></p> <p>調査対象とした学校設置者及び学校が把握していた平成 28 年度以降の AED</p> | <p>図表 1-1</p> |





#### 《AEDの適正な配置》

- AEDを事故現場（プール）に移動させていたため、迅速に使用できた。
- AEDの配置場所が誰もが分かりやすい場所であったため、迅速に取り組むことができた。

#### 《心肺蘇生やAEDの使用に関する研修》

- 事故前に研修を受講していたため、自信を持って対応できた。
- 研修を受講して、死戦期呼吸について理解していたため、正常な呼吸ができていないことが判断できた。
- 研修を受講して、電気ショックの要否はAEDが判断すると知っていたため、ためらわずに電気ショックのボタンを押せた。
- 研修を受講した経験が少なく、AEDの使用に自信がなかったため、そばにいた養護教諭に任せた。ためらわずにAEDを使用するためには、研修を繰り返し受講しておくことが重要と感じた。

#### (2) 事故を踏まえた改善措置

上記4校及びその学校設置者の中には、心停止事故を踏まえ、次のような改善措置を講じている例がみられた。

##### ① 学校

- ・ 事故対応のマニュアルを見直すとともに、シミュレーション訓練を実施
- ・ 保健体育科教員は、体育の授業に自主的に携帯電話（私物）を携帯
- ・ AEDを増設
- ・ 全ての教員に心肺蘇生及びAEDの使用に関する研修を実施

##### ② 学校設置者

- ・ 全ての小学校及び中学校において、順次シミュレーション訓練を実施
- ・ 管内の学校にAEDを1台増設
- ・ 学校の教職員向けポータルサイトに、事故の概要、救命できたポイント（的確な役割分担により連携して対応したこと等）、事故後の改善措置を掲載

上記のとおり、学校管理下において、児童生徒の心停止事故がまれなケースとは言えず、AEDが適切に使用されずに失われた命も少なくないとされていることを踏まえ、学校は、自校においても心停止事故が起こり得るものであると認識し、迅速かつ適切に救命活動を行えるよう、平時から備えておくことが重要と考えられる。

項目2以降では、上述した救命活動の状況や教員の意見も参考にして、①AEDが迅速・確実に使える配置・状態となっているか（AEDの配置場所、維持管理等）、②教職員等が連携して迅速・適切に救命活動を行えるか（危機管理マニュアル、シミュレーション訓練、教員に対する心肺蘇生やAEDの使用に関する研修）等の観点から、調査、取りまとめを行った。

## 2 AEDが迅速・確実に使える配置・状態となっているか

### (1) AEDの配置場所

| 調査結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 図表番号                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| <p><b>【制度の概要等】</b></p> <p>「第2次学校安全の推進に関する計画」（平成29年3月24日閣議決定。以下「第2次学校安全推進計画」という。）では、AEDは非常時に有効に活用できなければならないことから、複数配置を含む設置場所の適正化が必要とされている。</p> <p>一般財団法人日本救急医療財団（以下「日本救急医療財団」という。）は、AEDの設置や配置場所に関する基準等を示した「AEDの適正配置に関するガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）を平成25年9月に策定（30年12月に補訂）しており、厚生労働省は、文部科学省に通知文書※を発出してガイドラインを情報提供し、学校等に周知するよう依頼している。</p> <div data-bbox="277 790 1236 922" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※ 自動体外式除細動器（AED）の適正配置に関するガイドラインの補訂について（令和元年5月17日付け医政発0517第12号文部科学省大臣官房長宛て厚生労働省医政局長通知）</p> </div> <p>ガイドラインでは、AEDの配置場所について、以下の点などを考慮するよう求めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 心停止のリスクがある場所（運動場や体育館等）の近くへの配置</li> <li>○ 現場から片道1分以内※の場所への配置</li> <li>○ 24時間誰もがアクセスできること（鍵をかけない、常に使用できる人がいるなど）</li> </ul> <div data-bbox="277 1303 1236 1520" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※ 「AEDの具体的設置・配置基準に関する提言」（日本循環器学会AED検討委員会、日本心臓財団）では、①心停止から長くても5分以内の除細動が必要、②目撃後2分以内にAEDの必要性を認知し、AED到着後1分で電気ショックをすると仮定すれば、心停止の現場から片道1分以内の場所へのAEDの配置が必要（時速9kmの速歩が可能と想定すれば、1分で150m到達）としている。</p> </div> <p><b>【調査の結果】</b></p> <p>当局が学校設置者11機関及び学校21校を対象として、AEDの設置台数及び配置場所を調査したところ、以下のような状況がみられた。</p> <p><b>ア 学校のAED設置台数</b></p> <p>調査した学校設置者11機関が把握する各学校（1,616校）のAED設置台数をみると、全ての学校にAEDが設置されており、1台設置校が76.6%、複数台設置校が23.4%であった。複数台設置校は、小学校が7.9%、中学校が16.6%であるのに対し、高等学校は73.6%と高くなっており、学校設置者は、「高等学校は、小学校や中学校と比べて、生徒数が多く敷地面積が広いこと、部活動で激しい運動を行い心停止発生リスクが高いこと、工業科など多様な学科があり授業中にも当該リスク</p> | <p>図表 2-1</p> <p>図表 2-2</p> <p>図表 2-3</p> <p>図表 2-4</p> |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| <p>があることなどが考えられる。」などとしている。</p> <p>また、調査した 21 校をみると、1 台設置が 9 校（小学校 6 校、中学校 3 校）、複数台設置が 12 校（小学校 2 校、中学校 3 校、高等学校 3 校、中等教育学校 2 校、高等専門学校 2 校）であり、調査した学校設置者は、少なくとも 1 台を各学校に配備し、2 台目以降は、学校が独自に調達したり、PTA の寄付等によるものとなっていた。</p> <p>なお、文部科学省が全国の国公立の学校（小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園等）を調査した結果によると、平成27年度末時点で AED を設置又は設置予定としている学校が 93.9% となっている。</p> <p><b>イ AED の配置場所</b></p> <p>（ア）AED の配置場所に関する有識者の意見</p> <p>当局がヒアリングした有識者から「学校が AED の配置場所を決定するに当たっては、心停止の発生確率を考慮することが重要である。学校での心停止事故の 8 割は、運動関連で発生しており、このほか心臓疾患を有する児童生徒についても考慮する必要がある。」との意見が聴かれた。</p> <p>（イ）ガイドラインの把握状況</p> <p>調査した学校設置者 11 機関は、いずれも、文部科学省等からガイドライン（平成 30 年補訂版）の周知はなかったとしており、9 機関（81.8%）は、ガイドラインを承知していなかった。残りの 2 機関（奈女大、1 教委）は、独自にガイドラインを把握して学校に周知し、AED の配置の参考にするよう指導していた。</p> <p>また、調査した 21 校のうち、ガイドラインを承知していたのは 3 校（神大中等校、奈女大中等校、公立 1 校）で、残りの 18 校（85.7%）は承知していなかった。</p> | <p>図表 2-5</p>          |
| <p>（ウ）調査した 21 校における AED の配置場所</p> <p>① 1 台設置の 9 校をみると、7 校は、職員室（同室前の廊下を含む。）に配置していた。このうち 5 校は、児童生徒が AED を取りに行くこととはしておらず（児童生徒は、心停止事故の発生を教職員に連絡）、教職員が AED を運搬する想定であった。</p> <p>② 複数台設置の 12 校をみると、9 校は、少なくとも 1 台を体育館に配置していた。また、高等学校、中等教育学校及び高等専門学校（7 校）では、職員室への配置はなく、全校が玄関に、6 校が体育館に配置しており、これらの学校は、教職員に加え、生徒や学生も AED を運搬する想定であった。</p> <p>③ 7 校は、屋外に AED を配置しており、「AED の配置施設（校舎や体育館等）が施錠された後、児童生徒に心停止事故が発生しても対応できるものとした。」「夜間休日に学校施設利用者が AED を使用できるようにした。」などとしている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <p>図表 2-5<br/>(再掲)</p> |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| <p>(エ) 配置場所の見直しの余地がある事例</p> <p>調査した21校のうち、15校はAEDの配置場所の決定理由を不明とし、ガイドラインを踏まえて配置したとする学校は、2校（神大中等校、奈女大中等校）であった。</p> <p>当局は、ガイドラインに基づく次の点を踏まえ、21校のAED全台について、配置場所と発生リスクが高いとされる運動施設との距離や位置関係等を学校関係者とともに現地調査した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 心停止発生リスクが高いと想定した場所の近くに配置しているか。</li> <li>○ AEDを運搬すると想定した者が、迅速に取りに行ける場所であるか。</li> <li>○ 児童生徒、学生の在校中は、常に使用できるものとなっているか。</li> </ul> <p>その結果、2校において、次のとおり、AEDの運搬・使用に時間を要するおそれがある事例がみられた。なお、当該2校は、いずれもガイドラインを承知していなかった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>① 学校敷地内でAEDの配置場所が偏っているため、最寄りのAEDから運動施設まで約300m離れており、AEDの運搬に片道1分以上要するとみられるもの（奈良高専）</p> <p>② AEDの配置施設（体育館）が施錠された際に、その近くにある運動施設で心停止事故があった場合、体育館を解錠するか、離れた場所にあるAEDを使用しなければならないもの（明石高専）</p> </div> <p>一方で、AEDの配置について、次のとおり工夫している取組がみられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① AEDの配置場所がガイドラインに沿ったものとなるよう、i) 校内全ての場所からAEDまで1分以内に到達できるか走って計測し配置場所を変更、ii) 職員室や体育教官室は、教職員が不在となる際に施錠されるため、同室内にあったAEDの配置場所を校舎及び体育館の玄関（屋内）に変更（神大中等校）</li> <li>② 施設の施錠後も使用できるよう、AEDを体育館の外壁、校舎の玄関など、屋外に配置（大教大平野中、奈女大中等校、明石高専、奈良高専、公立3校）</li> </ul> <p>上記調査結果のとおり、調査した学校設置者は、いずれも、文部科学省等からガイドラインの周知はなかったとし、21校のうち、18校がガイドラインを承知せず、ガイドラインを踏まえてAEDを配置したとする学校は2校であった。</p> <p>上記のAEDの運搬・使用に時間を要するおそれがある事例が生じたのは、当該学校がガイドラインの内容（心停止発生リスクが高い運動施設近くへのAEDの配置等を考慮）を承知していないことが一因と考えられ、今回調査した学校以外においても、ガイドラインを承知していないことにより、同様の事例が生じている可能性がある。</p> <p>このため、学校にガイドラインが周知され、学校は、その内容を踏まえた上で、AEDの配置場所を決定することが望まれる。</p> | <p>図表 2-6</p> <p>図表 2-7</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|

**【所見】**

したがって、明石高専及び奈良高専は、A E Dの運搬・使用に時間を要することにより、救命活動が迅速に行えない事態が生じることがないように、ガイドラインの内容を踏まえた上で、現在のA E Dの配置場所の見直しを検討する必要がある。

## (2) AEDの配置場所の掲示及び周知

| 調査結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  | 図表番号                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--------------------------------------|
| <p>【制度の概要等】</p> <p>心停止事故の発生時は、一刻を争う極限の状態であり、AEDを運搬する者は、迷うことなくAEDの配置場所に向かうことが求められる。</p> <p>ガイドラインでは、①AEDは施設の見やすい場所に配置し、位置を表す掲示を設け、②AED設置施設の全職員がAEDの正確な配置場所を把握しておくよう求めている。</p> <p>【調査の結果】</p> <p>当局が学校設置者 11 機関及び学校 19 校を対象として、AEDの配置場所の掲示及び周知の状況を調査したところ、以下のような状況がみられた。</p> <p>ア 学校設置者による指導状況</p> <p>調査した11機関のうち、平成28年度以降、学校に対し、AEDの配置場所を掲示するよう指導しているのは4教委（36.4%）、教職員及び児童生徒にAEDの配置場所を周知するよう指導しているのは3教委（27.3%）であった。</p> <p>イ 学校におけるAED配置場所の掲示及び周知状況</p> <p>調査した19校におけるAED配置場所の掲示状況及び教職員、児童生徒、学生への周知状況をみると、以下のとおり、AEDを運搬する者が配置場所を把握できないおそれがある事例がみられた。</p> <div><p>① 教職員だけでなく、生徒もAEDを運搬することを想定しているが、AEDの配置場所（事務室、体育教官室）のどの位置にあるかを掲示しておらず分かりにくい（2校（2台）：大教大平野中、公立1校）。</p><p>掲示していない理由について、2校は、「掲示の必要性について認識がなかった。」としている。</p></div> <div><p>② 教職員にAEDの配置場所を周知していない（3校：明石高専、公立2校）。</p><p>周知していない理由について、3校は、①AEDは分かりやすい場所に配置されており、周知の必要性を感じていなかった（2校）、②周知の必要性について認識がなかった（明石高専）としている。</p></div> <div><p>③ AEDを運搬することが想定される生徒や学生に対し、</p><p>i）AEDの配置場所を周知していない（4校：大教大平野中、奈良高専、公立2校）</p><p>ii）教室等に配置している安全管理マニュアルにAED配置図を掲載しているだけで周知が不十分（明石高専）</p></div> |  | <p>図表 2-3<br/>（再掲）</p> <p>図表 2-8</p> |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| <p>周知していない理由について、4校は、周知の必要性について認識がなかったとしている。</p> <p>一方、専用ボックスの設置やステッカーの貼付などにより、AEDの配置場所を分かりやすく掲示している取組がみられた(大教大池田小、神大附属小、公立2校)。</p> <p><b>【所見】</b></p> <p>したがって、大教大、明石高専及び奈良高専は、AEDを運搬する者がAEDの配置場所を把握できず、迅速に運搬できない事態が生じないよう、以下の措置を講ずる必要がある。</p> <p>① 大教大は、附属学校に対し、AEDの配置場所をステッカーの貼付等により分かりやすく掲示するとともに、生徒に配置場所を周知徹底するよう指導すること。</p> <p>② 明石高専は、教職員及び学生に対し、AEDの配置場所を周知徹底すること。</p> <p>奈良高専は、学生に対し、AEDの配置場所を周知徹底すること。</p> | <p>図表 2-9</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|



### (3) AEDの移動

| 調査結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |  | 図表番号                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>【制度の概要等】</b></p> <p>校内において、心停止発生リスクが高いとされる運動の場面にAEDを移動させておくことで、AEDをより迅速に使用することが可能になると考えられる。</p> <p>また、校外については、文部科学省が作成した「学校の危機管理マニュアル作成の手引」（平成30年2月）では、校外におけるマラソン大会などAEDの使用が想定される場合は、事前にAEDの設置場所を確認し、必要に応じてAEDを持参することが必要とされている。</p> <p><b>【調査の結果】</b></p> <p>当局が学校設置者11機関及び学校19校を対象として、校内や校外へのAEDの移動状況を調査したところ、以下のような状況がみられた。</p> <p><b>A 学校設置者による指導状況</b></p> <p>調査した11機関のうち、平成28年度以降、学校に対し、AEDを移動させるよう指導しているのは、1教委（9.1%）であった。</p> <p><b>I 学校におけるAEDの移動状況</b></p> <p>(ア) 校内での移動</p> <p>調査した19校のうち13校（68.4%）では、校内でAEDを移動させていた。水泳の授業や運動会、球技大会など心停止発生リスクの高い運動の場面への移動であり、AEDをより迅速に使用できるよう備えたものである。実際に救命活動を行った教員からは、「水泳の授業の際にAEDをプールに移動させていたため、迅速にAEDを使用できた。」との意見が聴かれた。</p> <p>一方で、校内でAEDを移動させていない6校（明石高専、公立5校）は、①移動の必要性を感じていなかった（明石高専、公立4校）、②移動させてはいけなと考えていた（公立1校）としている。</p> <p>(イ) 校外への持参</p> <p>AEDが複数台設置されている12校について、校外へのAEDの持参状況を調査したところ、次のとおり、5校（41.7%）において、校外で心停止事故が発生した場合に、迅速にAEDを使用できないおそれがある事例がみられた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>校外で心停止発生リスクが高い運動行事等を開催する際に、AEDを持参しておらず、事前に開催場所周辺のAEDの設置状況の確認もしていない（5校：神大附属小、神大中等校、奈良高専、公立2校）。</p> </div> <p>その理由について、5校は、①持参の必要性を感じていなかった（4校）、②校外へ持ち出してはいけないと考えていた（1校）としている。</p> |  | <p>図表 2-10</p><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><p>図表 2-11</p> <p>図表 1-3<br/>（再掲）</p> |

一方、マラソン大会、臨海学校、林間学校等を開催する際にAEDを持参している例がみられた（5校）。中には、過去に修学旅行先で心停止事故が発生したことを契機に、AEDを増設して修学旅行に持参しているケースもあった（1校）。

**【所見】**

したがって、神大及び奈良高専は、校外で心停止発生リスクが高い運動行事等を開催するに当たり、AEDを迅速に使用できるよう、以下の措置を講ずる必要がある。

- ① 神大は、附属学校に対し、事前に開催場所周辺のAEDの設置状況を確認した上で、必要に応じてAEDを持参するよう指導すること。
- ② 奈良高専は、事前に開催場所周辺のAEDの設置状況を確認した上で、必要に応じてAEDを持参すること。

#### (4) A E D の維持管理

| 調査結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |  | 図表番号                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---------------------------------------|
| <p>【制度の概要等】</p> <p>AEDは、医薬品、医療機器の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和 35 年法律第 145 号）に基づく高度管理医療機器（人の生命に重大な影響を与えるおそれがあり、適切な管理が必要とされるもの）に指定されており、本体には「耐用期間」※が、消耗品である電極パッドやバッテリーには「使用期限」が設定され、定期的な更新・交換が必要とされている。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※ 適正な使用環境と維持管理の基に、適切な取り扱いで本来の用途に使用された場合、その医療機器が設計仕様書に記された機能及び性能を維持し、使用することができる標準的な使用期限（一般社団法人電子情報技術産業協会）</p> </div> <p>「第 2 次学校安全推進計画」では、AEDは、非常時に有効に活用できなければならぬことから、学校は、定期的な点検・管理を行うことが必要とされている。</p> <p>文部科学省は、平成 21 年 5 月に、学校設置者等に事務連絡文書※（以下「文科省 21 年通知」という。）を発出し、AEDの維持管理として以下の対応を求めている。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※ 「自動体外式除細動器（AED）の適切な管理等の実施について（注意喚起及び関係団体への周知依頼）」（平成 21 年 5 月 29 日付け各国公立大学事務局、各国公立高等専門学校事務局、各都道府県・指定都市教育委員会総務課等宛て文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課事務連絡）</p> </div> <p>① AED設置者は、点検担当者を配置し、日常点検等を実施させる。</p> <p>② 点検担当者は、以下の事項を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AEDのインジケータランプにより、AEDが正常な状態であることを日常的に確認して記録する。</li> <li>・ AED本体等に電極パッド、バッテリーの交換時期を記載した表示ラベルを取り付けて日頃から把握し、適切に交換する。</li> </ul> <p>また、日常点検の頻度については、「AEDの適切な管理等の実施に係る Q&amp;A」（厚生労働省のウェブサイトに掲載）において、AEDの取扱説明書に記載された頻度で実施するとされている。</p> <p>なお、耐用期間の管理については、厚生労働省のウェブサイト、「耐用期間は AEDの添付文書、取扱説明書に記載されていますので、必ず確認しておきましょう。」と掲載されているが、文科省 21 年通知では言及されていない。</p> |  | <p>図表 2-1<br/>（再掲）</p> <p>図表 2-12</p> |
| <p>【調査の結果】</p> <p>当局が学校設置者 11 機関及び学校 19 校を対象として、AEDの維持管理状況を調査したところ、以下のような状況がみられた。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |  | <p>図表 2-13</p> <p>図表 2-14</p>         |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>ア 学校設置者による指導状況</b></p> <p>調査した 11 機関について、平成 28 年度以降の学校への A E D の維持管理に関する指導状況をみると、5 機関（大教大、奈女大、3 教委）は指導していなかったが、維持管理に関する要項等を設けているもの（3 教委）や文書指導しているもの（神大、2 教委）がみられた。</p> <p>なお、耐用期間の管理について指導しているのは、1 教委（9.1%）であった。</p> <p><b>イ 学校における A E D の維持管理が不適切な事例</b></p> <p>調査した 19 校に設置されていた計 41 台（購入 21 台、リース 20 台）の A E D を現地調査したところ、次のとおり、維持管理が不適切な事例がみられた。</p> <div data-bbox="199 694 1211 1030" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 日常点検が未実施又は不十分（12 校 22 台）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 点検担当者が定められておらず、日常点検を実施していない（6 校 9 台：奈良高専、公立 5 校）。</li> <li>ii A E D の取扱説明書で規定された頻度（毎日）で日常点検を実施していない（4 校 8 台：神大附属小、神大中等校、奈女大附属小、公立 1 校）。</li> <li>iii 点検担当者の不在時に点検が行われていない（奈女大中等校 2 台）。</li> <li>iv 日常点検を実施しているが、点検結果を記録していない（公立 2 校 3 台）。</li> </ul> <p>上記 12 校は、いずれも、文科省 21 年通知を承知しておらず、上記事例の発生原因は、日常点検の必要性や実施頻度等に関する認識が乏しいためと考えられる。</p> </div> <div data-bbox="199 1220 1211 1366" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>② 使用期限を超過した消耗品を使用（2 校 3 台）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i バッテリーの使用期限を 1 か月超過（公立 1 校 1 台）</li> <li>ii 電極パッドの使用期限を 5 か月又は 7 か月超過（公立 2 校 2 台）</li> </ul> <p>上記 3 台のうち 2 台は、日常点検が未実施であった。超過理由について、学校は、「使用期限の超過に気付かなかった。」「リース業者から学校に新しい電極パッドが送付されていたが、交換担当者が交換することを失念していた。」などとしている。</p> </div> <div data-bbox="199 1608 1211 1753" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>③ 耐用期間を超過した A E D を使用（5 校 5 台：明石高専、神大附属小※、神大中等校、公立 2 校）</p> <p>超過期間は、8 年 1 か月、4 年 8 か月※、1 年 8 か月、1 年 5 か月、10 か月</p> <p>上記 5 台の A E D は、いずれも購入されたものであり、リースとは異なり、設置者である学校又は学校設置者が耐用期間を管理しなければならないものである。</p> <p>超過理由について、学校及び学校設置者は、次のとおり説明している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i A E D に耐用期間があることを知らなかった（明石高専、公立 1 校）。</li> <li>ii 耐用期間の管理を行っていなかった（公立 1 校）。</li> <li>iii 大学が附属学校の A E D の耐用期間を管理しているが、同時期に多数の A</li> </ul> </div> | <p>図表 2-15</p> <p>図表 2-16</p> <p>図表 2-17</p> <p>図表 2-18</p> <p>図表 2-19</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| <p>EDを導入したため、耐用期間満了時点での更新が予算的に困難となり、更新計画等は定めず、可能なものから適宜更新を進めていた。平成 30 年度に更新計画を策定し、順次更新を進めている（神大附属小、神大中学校）。</p> <p>※ 神大附属小のAEDは、調査途中の令和元年 12 月に更新済み。</p> <p><b>ウ 耐用期間の管理について工夫している取組</b></p> <p>当局が調査したAEDについては、耐用期間は、取扱説明書や保証書に記載されており、AED本体に直接記載されているものはみられなかった。</p> <p>一方、学校の中には、製造販売業者等から交付される表示ラベルに、購入日と耐用期間を記載してAEDに取り付けているものがみられ、耐用期間の管理に有効な方法と考えられる。</p> <p>上記調査結果のとおり、調査した 19 校のうち、12 校で日常点検が未実施又は不十分な事例がみられ、これらの学校は、いずれも、文科省 21 年通知を承知しておらず、日常点検の必要性等に関する認識が乏しい状況がみられた。</p> <p>このため、学校に文科省 21 年通知が周知徹底され、学校は、その内容を踏まえた上で、AEDの維持管理を適切に行うことが必要である。</p> <p><b>【所見】</b></p> <p>したがって、神大、奈女大、奈良高専及び明石高専は、心停止事故発生時にAEDが正常に作動しない事態を防ぐため、以下の措置を講ずる必要がある。</p> <p>① 神大及び奈女大は、附属学校に対し、文科省 21 年通知等の内容を周知徹底し、AEDの日常点検を適切に実施するよう指導すること。</p> <p>また、神大は、附属学校に設置したAEDのうち、耐用期間を超過しているものについて、速やかに更新すること。</p> <p>② 奈良高専は、文科省 21 年通知等の内容を踏まえ、AEDの日常点検を適切に実施すること。</p> <p>また、明石高専は、AEDの耐用期間の管理を適切に行うとともに、耐用期間を超過したAEDについて、速やかに更新すること。</p> | <p>図表 2-20</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|

### 3 教職員等が連携して迅速・適切に救命活動を行えるか

#### (1) 危機管理マニュアル、シミュレーション訓練

| 調査結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 図表番号                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| <p><b>【制度の概要等】</b></p> <p>「第2次学校安全推進計画」では、AEDは非常時に有効に活用できなければならないことから、学校は、教職員の使用訓練を行うことが必要とされている。</p> <p>学校保健安全法（昭和33年法律第56号）第29条では、①学校は、危険等発生時において当該学校の職員がとるべき措置の具体的内容及び手順を定めた対処要領（以下「危機管理マニュアル」という。）を作成し、②校長は、危機管理マニュアルの職員に対する周知、訓練の実施その他の危険等発生時において職員が適切に対処するために必要な措置を講ずるとされている。</p> <p>また、文部科学省が策定した「学校事故対応に関する指針」では、①危機管理マニュアルの内容の教職員への周知と訓練を進め、全教職員がマニュアルに基づく対応が実施できるよう備えておくこと、②マニュアルは、毎年度、訓練等の結果を踏まえて見直しを行い、実効性のあるものとする必要があるとされ、このほか、同省が策定した「学校の危機管理マニュアル作成の手引」においても、上記②と同様の主旨が記述されている。</p> <p><b>【調査の結果】</b></p> <p>当局が学校設置者11機関及び学校21校を対象として、平成28年度以降の危機管理マニュアルの見直し状況及びシミュレーション訓練※の実施状況等を調査したところ、以下のような状況がみられた。</p> <div data-bbox="300 1267 1236 1357" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※ 心停止事故の発生時に危機管理マニュアルに記述された対応が行えるよう、誰がどのように動き、119番通報、AED運搬にあたるかなどを訓練するもの</p> </div> | <p>図表 2-1<br/>(再掲)</p> <p>図表 3-1</p> <p>図表 3-2</p> <p>図表 3-3</p> |
| <p><b>ア 危機管理マニュアル、シミュレーション訓練に関する有識者の意見等</b></p> <p>当局がヒアリングした有識者から、危機管理マニュアルの内容やシミュレーション訓練の必要性について、次のような意見が聴かれた。</p> <p>① 救命活動の経験者からは、「自分が救助できるのか。」「手順に誤りがないか。」といった迷いがあったとの意見が聞かれ、こういった心理的な障壁を無くすためにも、心停止事故の際にどのような状況になるかリアリティを持たせることが重要で、シミュレーション訓練を行うことが必要である。</p> <p>② 心停止事故に迅速に対応するためには、必要な対応を端的に記載したアクションカード等を作成することが望ましい。</p> <p>③ 迅速な対応が求められる救命活動では、複数の者がチーム（組織力）となって、それぞれの役割を果たすことが重要になる。この組織力の基になるのが、救命活動を行う者の「共通理解事項」を定めたマニュアルであり、シミュレーション訓練である。マニュアルに基づきシミュレーション訓練を行い、その結果を検証した上で、マニュアルの見直し等を行うことが重要である。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | <p>図表 3-4</p>                                                    |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| <p>また、実際に救命活動を行った教員からは、「周りにいた児童生徒を現場から移動させる必要があることに気付くまでに時間を要した。事前に想定していなかったことは、事故現場では対応できないことが分かった。」との意見が聴かれた。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>図表 1-3<br/>(再掲)</p>   |
| <p><b>イ 学校設置者による指導状況</b></p> <p>調査した 11 機関は、いずれも、「学校事故対応に関する指針」等を学校に周知することにより、訓練の実施や危機管理マニュアルの見直しについて指導したとしている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                      |                          |
| <p><b>ウ 学校におけるシミュレーション訓練の実施状況等</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                          |
| <p>(ア) 危機管理マニュアルの作成状況</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                          |
| <p>調査した 21 校は、いずれも、心停止を含む傷病者の救命活動について記載した危機管理マニュアルを作成していた。マニュアルには、救命活動に関して、傷病者の発見から医療機関への搬送までに必要な対応（応援要請、119 番通報、管理職への報告、保護者への連絡等）を示したフロー図などが記述されていた。</p> <p>なお、実際に救命活動を行った教員から「管理職の判断を待たず、教員が 119 番通報可能としていたため、迅速に通報できた。」との意見が聞かれたが、21 校の危機管理マニュアルをみると、管理職の判断を待つことなく現場の教職員が 119 番通報可能と記述しているのは 8 校（38.1%）であった。</p>                                                                      | <p>図表 1-3<br/>(再掲)</p>   |
| <p>(イ) シミュレーション訓練等の実施状況</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                          |
| <p>調査した 21 校について、心停止事故発生時のシミュレーション訓練及び危機管理マニュアルの見直しの実施状況を調査したところ、訓練等を実施している学校がある一方で、次のとおり、12 校（57.1%）において、救命活動を迅速・適切に行うことが困難となるおそれがある事例がみられた。</p>                                                                                                                                                                                                                                        | <p>図表 3-5</p>            |
| <div data-bbox="207 1413 1230 1559" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>シミュレーション訓練を実施しておらず、また、危機管理マニュアルの見直しも行っていない（12 校：奈女大附属小、奈女大中等校、明石高専、奈良高専、公立 8 校）。</p> </div> <p>訓練が未実施の理由について、12 校は、①これまで訓練の必要性についての認識が十分でなく、実施について検討したことがなかった（11 校）、②業務が多忙で実施する時間が確保できなかった（1 校）としている。</p> <p>このうち 4 校からは、「今回の調査を受け、救命活動に必要な対応をチェックリスト化するなど、現在の危機管理マニュアルを見直す余地がある。」とする意見が聴かれた。</p> |                          |
| <p><b>エ シミュレーション訓練等について工夫している取組</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                          |
| <p>A 教委は、管内の学校で心停止事故が発生したことを契機として、平成 30 年度から、小学校及び中学校でシミュレーション訓練を実施するよう指導し、訓練の方法や手順を示している。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <p>図表 3-6<br/>図表 3-7</p> |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| <p>当該訓練方法・手順は、上記事故が発生した学校がシミュレーション訓練の重要性を認識し、医療機関や消防機関と連携して作成したものであり、①シナリオを設けず、教職員がその場で判断して行動する実践的なもの、②「振り返りシート」を使用して訓練結果を検証した上で、危機管理マニュアルの見直しや改善措置を講じるものとなっている。</p> <p>A教委は、「心停止事故は一刻を争う状況で、複数の教職員が役割分担して対応することになるため、教職員同士の連携（チームアプローチ）に主眼を置いた訓練としている。実効性のある危機管理マニュアルにするためには、訓練結果を検証した上で、実施すべき事項だけでなく、その方法までを具体的に記載しておくことが必要である。」としている。</p> <p>また、調査したA教委管内の学校におけるシミュレーション訓練の結果をみると、例えば、次のような課題が判明し、危機管理マニュアルの見直し等の改善が図られていた。</p> <p>《課 題》 事故時には混乱が生じるため、必要な対応を一目で分かるようにすることが必要</p> <p>（改善策） 事故時に必要な対応を箇条書きにして職員室の壁に掲示したり、教職員の名前ホルダーの裏面に記載</p> <p>《課 題》 119 番通報の際に伝えるべき事項や救急車の進入経路等を定めておく必要がある。</p> <p>（改善策） 危機管理マニュアルを補完する「共通理解事項」を作成し、以下の事項等を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 救急隊には、保健調査票により既往歴やアレルギー等を伝達</li> <li>・ 救急車の進入門を特定。119 番通報は管理職以外も可、携帯でも可とする。</li> </ul> | <p>図表 3-8</p>  |
| <p>このほか、シミュレーション訓練を実施した他の学校では、次のような課題が判明している。</p> <p>① 事故現場にAEDを運搬するのに時間を要したため、配置場所の見直しの検討が必要である。</p> <p>② 校内放送で応援要請を行うこととしていたが、実際に行ってみると、校内放送では聞こえづらく、分かりにくかった。</p> <p>③ 児童生徒に教職員の応援要請やAEDの運搬等をさせるかどうか検討する必要がある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | <p>図表 3-9</p>  |
| <p>[参考] さいたま市教育委員会の取組※</p> <p>総務省関東管区行政評価局が調査し、平成 30 年 12 月に公表した「国の出先機関等の施設における救命活動に関する調査－AEDを中心として－」の結果等によると、さいたま市教育委員会（以下「さいたま市教委」という。）は、心停止等重大事故の発生時の対応を定めた「体育活動時等における事故対応テキ</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>図表 3-10</p> |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| <p>スト～ASUKAモデル～」(以下「ASUKAモデル」という。)を作成し、市立学校が危機管理体制を整備するに当たっての考え方や方法を示している。</p> <p>ASUKAモデルでは、学校は、研修や訓練により教職員の危機管理に関する意識や資質の向上を図ることが重要とされ、①重大事故発生時の対応訓練を全教職員で年度当初に実施すること、②重大事故発生時における対応として、i) 第一発見者や応援者が対応すべきこと(箇条書きで明示)や、ii) 管理職等が対応に漏れがないかを確認するための「指揮命令内容チェックシート」等が示されている。</p> <p>また、さいたま市教委は、市立学校に、文部科学省の「学校事故対応に関する指針」を周知するだけでなく、訓練を実施するよう通知し、その結果を報告させることにより、訓練の実施を徹底している。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>※ ASUKAモデルは、さいたま市内の小学生が駅伝の課外練習中に倒れ、翌日、搬送先の病院で亡くなった事故について、専門家等による検証委員会において学校の危機管理体制等を検証した結果を踏まえて作成されたもので、さいたま市教委の取組は、全国の自治体から先進事例とされているため、本報告書において引用した。</p> </div> <p><b>オ 迅速に対応するため工夫している取組</b></p> <p>学校が運動施設等に電話を整備したり、携帯電話を配備するなどして、職員室への連絡や119番通報を迅速に行えるよう工夫している取組がみられた。</p> <p>① プールサイドや体育館等に、外線電話や内線電話・インターホンを設置(大教大池田小、奈女大附属小、公立2校)</p> <p>② 心停止事故発生時に使用できるよう学校が携帯電話を配備(大教大平野中、公立2校)</p> <p>③ 教職員には、携帯電話(私物)を持ち歩くよう推奨(大教大平野中)</p> <p style="padding-left: 20px;">体育の授業中、保健体育科教員が自主的に携帯電話(私物)を携行(公立1校)</p> <p>実際に救命活動を行った教員からは、「プールに設置された内線電話で、迅速に応援要請ができた。」「携帯電話があったため、現場から迅速に119番通報できた。通報後も状況をリアルタイムで消防署に説明でき、また、消防署からの指示も救助者にすぐに伝えることができた。」との意見が聴かれた。</p> <p><b>【所見】</b></p> <p>したがって、奈女大、明石高専及び奈良高専は、心停止事故発生時に教職員等が連携して迅速・適切に救命活動が実施できるよう、以下の措置を講ずる必要がある。</p> <p>① 奈女大は、附属学校に対し、心停止事故発生時のシミュレーション訓練を実施するとともに、その結果を踏まえ、危機管理マニュアルが実効性のあるものとなっているか検証するよう指導すること。</p> <p>② 明石高専及び奈良高専は、心停止事故発生時のシミュレーション訓練を実施するとともに、その結果を踏まえ、危機管理マニュアルが実効性のあるものとなっているか検証すること。</p> | <p>図表 3-11</p> <p>図表 1-3<br/>(再掲)</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|

(2) 教員に対する心肺蘇生やAEDの使用に関する研修

| 調査結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 図表番号                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| <p><b>【制度の概要等】</b></p> <p>学校保健安全法第 27 条では、学校は、児童生徒等の安全の確保を図るため、職員の研修その他学校における安全に関する事項について計画を策定し、これを実施しなければならないとされている。</p> <p>「第 2 次学校安全推進計画」では、教育委員会や学校は、全ての教職員が学校安全に関する研修を受けられるよう取り組むことが必要で、研修ではAEDの適切な使用を含む心肺蘇生に関する内容を扱うことが重要とされている。</p> <p>また、心肺蘇生等に関する研修を受講しても、長期間経過すると手順や方法の記憶が薄れると考えられ、消防庁次長通知※では、消防機関が行う住民に対する普通救命講習（心肺蘇生やAEDの取扱い等）は 2 年から 3 年間隔での定期的な再講習を行うとされている。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※ 「応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」（平成 5 年 5 月 30 日付け消防救第 41 号都道府県知事宛て消防庁次長通知）</p> </div>                                                                                                                                                                      | <p>図表 3-12</p> <p>図表 2-1<br/>(再掲)</p> <p>図表 3-13<br/>図表 3-14</p> |
| <p><b>【調査の結果】</b></p> <p>当局が学校設置者 11 機関及び学校 21 校を対象として、教員に対する心肺蘇生やAEDの使用に関する実技研修（以下「実技研修」という。）の実施状況等を調査したところ、以下のような状況がみられた。</p> <p><b>ア 学校設置者による指導状況</b></p> <p>調査した 11 機関のうち、平成 28 年度以降、学校に対し、教員に実技研修を実施するよう指導していたのは 5 教委（45.5%）で、うち 2 教委は、毎年実施するよう求めていた。</p> <p>一方、各教員の実技研修の受講間隔について指導している学校設置者はなかった。</p> <p><b>イ 各教員の実技研修の受講状況等</b></p> <p>（ア）学校における実技研修の実施頻度</p> <p>調査した 21 校における実技研修の実施頻度は、「毎年」が 19 校、「2 年に 1 回」が 1 校、「定期的には実施していない」が 1 校であった。</p> <p>また、当該研修の対象に非常勤教員を含めているのは、公立 4 校（19.0%）であった。</p> <p>（イ）各教員における実技研修の受講間隔</p> <p>調査した 21 校に、各教員が実技研修を受講すべき間隔に関する考え方を聴取したところ、15 校（71.4%）が「毎年」としており、次いで、「3 年に 1 回」が 4 校、「2 年～3 年に 1 回」が 2 校となっている。心肺蘇生やAEDの使用を迅速・適切に行うためには、毎年の受講が必要と考える学校が 70%を超えてい</p> | <p>図表 3-15</p>                                                   |

る。

一方、21校について、令和元年9月末に在籍する各教員の実技研修の受講履歴を調査したところ、次のとおり、心停止事故発生時に、教員全員がAEDの使用を含む心肺蘇生を迅速・適切に行えるものとなっていないおそれがある事例がみられた。

12校(57.1%) ※において、3年以内に実技研修を受講していない教員(以下「3年以内に未受講の教員」という。)がみられた。

※ 大教大池田小、大教大平野中、神大附属小、神大中等校、奈女大附属小、明石高専、奈良高専、公立5校

受講間隔を確認できた教員のうち、3年以内に未受講の教員が占める割合をみると、最も高い学校は93.9%(奈良高専)、次いで56.5%(明石高専)、47.8%(公立学校)の順となっている。

図表 3-16

3年以内に未受講の教員が生じている主な理由について、12校は、以下のとおり説明している(複数回答)。

① 非常勤教員を研修対象としていない(10校)。

研修対象としない理由について、10校は、いずれも、「非常勤教員は、勤務日が月に数日程度、勤務時間が授業のうちの数コマなどのケースが多く、勤務時間内に研修を受講することが困難である。受講を求めるためには、研修時間の給与の支払が必要となるが、その確保が容易でない。」としている。

また、受講間隔を確認できた非常勤教員(89人)のうち、77.5%(69人)が3年以内に未受講の教員であった。

② 研修の受講を最優先の業務に位置付けていない(4校)。

③ 定期的に研修を実施していない(1校)。

④ 研修の受講履歴を把握しておらず、3年に1回の研修対象者から漏れた(1校)。

図表 3-17

一方、3年以内に未受講の教員がいない9校は、いずれも、実技研修の受講を最優先の業務に位置付けていた。

このほかにも、教員が実技研修を受講しやすいよう、次のような工夫を行っている取組がみられた。このうち、①及び②の方法は、上述した非常勤教員の受講が困難な状況の改善策につながるものと考えられる。

① 養護教諭が各教員の希望する日時に、個別に短時間で研修を実施

② 座学部分は、各自が事前にDVDを視聴し、研修当日は実技のみとすることで時間を短縮

③ 全教員の出席が必要な「成績会議」と同日に研修を実施

④ 研修当日は、部活動を休止

[参考] さいたま市教委は、学校での実技研修（普通救命講習Ⅰ）を受講できなかった教職員を対象として、夏期休業期間中に集合方式で上記研修を実施している。

ウ 学校による実技研修の開催方法が不適切な事例

B教委管内の校長会は、所属する小学校及び中学校の教員を招集して実技研修を実施し、全教員が3年に1回受講するよう求めている。

しかし、当該間隔での受講に必要な定員が設定できていない上、参加者は、定員の8割程度となっていた。

B教委は、研修会の参加者数の設定状況や参加実績を把握していなかったと  
している。

图表 3-18

エ その他実技研修等について工夫している取組

(ア) 教員による応急手当普及員の資格の取得

学校設置者又は学校が、教員に応急手当普及員※の資格を取得させ、学校での実技研修の講師や安全管理業務を担当させている取組がみられた（大教大、C教委、奈女大附属小）。

※ 応急手当普及員とは、主として自身が所属する事業所や防災組織等において従業員や構成員に対する応急手当講習（心肺蘇生法やAEDの使用方法等）の指導に従事するものであり、消防機関が行う24時間の講習を受講し、消防長の認定を受けることが必要

(イ) AED使用時の女子への配慮

令和元年に、京都大学の研究チームが公表した調査結果によると、高校生では男子生徒に比べて、女子生徒へのAED使用率が低い傾向(男子生徒 83.2%、女子生徒 55.6%)があり、素肌を出すことに抵抗があったのではないかとしている。

調査した学校設置者及び学校は、いずれも、AED使用時には女子のプライバシーへの配慮が必要であるとしており、6校では、次のような取組がみられた。

- ① 教職員や生徒に対して、女性にＡＥＤを使用する際には、周りの傍観者を遠ざけるなど人目から隠すよう周知
- ② 目隠し用の物品（毛布、タオル、三角巾、ビニールシート等）をＡＥＤボックス内や保健室、プール準備室等に準備

このほか、学校から、「女性で人垣を作って周りから見えないようにする。」「救助者が着ている上着を被せる。」「服の隙間から電極パッドを貼る。」などの対応も可能であるとの意見が聴かれた。

图表 3-19

**【所見】**

したがって、大教大、神大、奈女大、明石高専及び奈良高専は、児童生徒等の心停止事故発生時に、全ての教員が心肺蘇生やAEDの使用を迅速・適切に行えるよう、以下の措置を講ずる必要がある。

- ① 大教大、神大及び奈女大は、附属学校に対し、全ての教員に実技研修を定期的に受講させるとともに、3年以内に未受講の教員については、直ちに受講させるよう指導すること。
- ② 明石高専及び奈良高専は、全ての教員に実技研修を定期的に受講させるとともに、3年以内に未受講の教員については、直ちに受講させること。

(3) 児童生徒等に対する心肺蘇生やAEDの使用等に関する知識や技能の普及

| 調査結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 図表番号           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| <p><b>【制度の概要等】</b></p> <p>学校内での心停止事故の第一発見者は、子供の場合も多く、子供が適切に対応できれば、救命の一助となり、また、子供の頃から学校で救命方法を学ぶことで、成長して社会に出てからも役立つスキルになるとされている。</p> <p>一方、平成 16 年に、非医療従事者にもAEDの使用が認められて以降、公共施設を中心にAEDの設置が進んでいるが、病院外で心停止者を目撃した一般市民のうち、心肺蘇生を行った者は 58.1%、AEDによる電気ショックを行った者は 4.9%であり※、AEDを用いた心肺蘇生を行うことができる人材を増やすことが求められている。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>※ 令和元年版 救急・救助の現況（総務省消防庁）</p> </div> <p><b>【調査の結果】</b></p> <p>当局が学校設置者 11 機関及び学校 19 校を対象として、児童生徒、学生に対する心肺蘇生やAEDの使用等に関する知識や技能の普及状況を調査したところ、以下のような状況がみられた。</p> <p><b>ア 中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校</b></p> <p>調査した中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校 12 校及びその学校設置者 11 機関は、いずれも、生徒、学生全員に、心肺蘇生やAEDの使用に関する実技（以下「心肺蘇生等の実技」という。）を教えることが必要又は望ましいとしている。</p> <p>しかし、生徒、学生全員に心肺蘇生等の実技を教えているのは、次のとおり、5 校であった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 全員に実施：5 校（大教大平野中、神大中等校、奈女大中等校、公立 2 校）</li> <li>② 運動部員等の一部の生徒、学生に実施：4 校（奈良高専、公立 3 校）</li> <li>③ 未実施：3 校（明石高専、公立 2 校）</li> </ol> <p>心肺蘇生等の実技を一部の生徒、学生にしか教えていない又は全く教えていない 7 校は、その理由について、次のとおり説明している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業時間内に全員が実技を行えるだけの訓練機材がない（4 校：奈良高専、公立 3 校）。</li> <li>② 授業時間が確保できない（6 校：明石高専、奈良高専、公立 4 校）。</li> </ol> <p>一方で、心肺蘇生等の実技について、次のような工夫を行っている取組がみられた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 多くの生徒が心肺蘇生等の実技を行えるよう簡易な訓練機材等を導入 <ol style="list-style-type: none"> <li>i) 安価で簡易な訓練機材を使用（奈女大中等校）</li> <li>ii) 心肺蘇生に必要な力とほぼ同じ力を要するとされる「空のペットボトル」</li> </ol> </li> </ol> | <p>図表 3-20</p> |
| <p>図表 3-21</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| <p>や「テニスボール」を代用品として使用（奈女大中等校、公立１校）</p> <p>② 学校設置者が簡易な訓練機材を導入し、学校に貸出し（２教委）</p> <p>③ AEDの実技に使用期限切れの電極パッドを活用（神大中等校）</p> <p><b>イ 小学校</b></p> <p>（ア）有識者の意見</p> <p>当局がヒアリングした有識者からは、小学生が救命活動を学ぶことについて、「学校はメンタル面にも配慮した上で、発達段階に応じた対応を教えることが望まれる。心肺蘇生等の実技以外でも、例えば、倒れた人を発見しても道に飛び出さないこと、119番通報が必要であること、心停止にはAEDの使用が有効であることなどである。」との意見が聴かれた。</p> <p>（イ）学校における取組状況</p> <p>調査した小学校の学校設置者８機関及び小学校７校に対し、児童に心肺蘇生やAEDなどの救命活動を教える必要性をヒアリングしたところ、「必要又は望ましい」が７機関・５校、「必要とまでは言えない」が１機関・２校であった。</p> <p>「必要とまでは言えない」とした学校等からは、「救命活動の内容や必要性を理解することが難しい。」、「心肺蘇生の実技は、体力的に難しい。」などの意見が聴かれた。</p> <p>一方、児童に救命活動を教えている小学校は４校（大教大池田小、神大附属小、公立２校。対象：５年生３校、６年生１校）であり、このうち３校（大教大池田小、公立２校）は、心肺蘇生等の実技も教えていた。</p> <p>これらの学校からは、「心肺蘇生やAED以外にも、児童ができること（大人に助けを求めること等）を理解させることができる。」、「小学生の頃から救命活動に関する知識を得ておくことで、成長後に救命活動を行う際の抵抗感を小さくできる。」などの意見が聴かれた。</p> <p>（ウ）救命活動に関する学習について工夫している取組</p> <p>D教委では、保健主事会が作成したカリキュラムを基に、全小学校で５年生に救命活動に関する学習を行っており、その内容をみると、心肺蘇生やAEDについてだけではなく、①命の大切さ、②心臓の動きと位置や心停止の意味、③心停止に遭遇した場合の注意事項（安全確認、大声で助けを呼ぶ、119番通報とAEDの要請を行う）を教えるものとなっている。</p> <p>児童へのアンケートでは、「勇気を振り絞ってできることをしたい。」、「自分にできることはしっかりしたい。」、「命を助けることができるよう勉強し続けたい。」などの感想がみられた。</p> <p>心停止事故発生時に、児童生徒等が適切な対応を行うことにより救命の一助になると考えられることや、社会において心肺蘇生やAEDの使用を行える人材を増や</p> | <p>図表 3-22</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|

|                                                                                             |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| すことが求められている現状を踏まえると、全ての学校において、児童生徒等の発達段階に応じ、心肺蘇生やA E Dの使用等に関する知識や技能を普及するよう、より一層取り組むことが望ましい。 |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|--|



#### 4 地域住民等が学校のAEDを使用できるか

| 調査結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 図表番号                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| <p><b>【制度の概要等】</b></p> <p>(1) 学校施設利用者に配慮したAEDの配置等</p> <p>学校は、児童生徒の保護者のほか、グラウンドや体育館等の施設の一般開放などにより、地域住民にも利用される施設であり、ガイドラインでは、学校に設置されているAEDは、施設が地域住民等に開放されている夜間休日でも使用できるように配慮することが望ましいなどとされている。</p> <p>(2) 財団全国AEDマップへの登録状況</p> <p>日本救急医療財団は、地域住民や救急医療に関わる機関がAEDの設置場所を把握していることが重要であるとして、AED設置者に対し、設置場所等に関する情報を登録するよう要請し、AED設置施設を地図上にピンで示した「財団全国AEDマップ」をウェブサイト上で公開している。</p> <p>文部科学省は、平成27年に、上記の登録に協力するよう学校設置者等に通知※（以下「文科省27年通知」という。）している。</p> <p>また、日本救急医療財団は、平成30年度からAEDの電極パッド及びバッテリーの交換時期を入力して登録情報を更新することによって、AEDの維持管理状況が分かる仕組み（ピンの色で表示）に変更し、その旨をウェブサイトで周知している。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>※ 「自動体外式除細動器（AED）設置登録情報の適切な更新等について（依頼）」（平成27年9月3日付け各都道府県・指定都市教育委員会学校安全主管課、各国公立大学事務局、各国公立高等専門学校事務局宛て文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課事務連絡）</p> </div> <p><b>【調査の結果】</b></p> <p>当局が学校設置者11機関及び学校19校を対象として、①学校施設利用者に配慮したAEDの配置状況等、②財団全国AEDマップへのAEDの設置情報の登録状況を調査したところ、以下のような状況がみられた。</p> <p>(1) AEDの配置場所及びその掲示等</p> <p>調査した学校設置者及び学校の中には、次のとおり、学校施設利用者に配慮して、AEDの配置や掲示を工夫している取組がみられた。</p> <p>① 校舎が施錠されている夜間休日にも、地域住民や学校施設利用者がAEDを使用できるよう、全小学校のAEDを屋外に移設（1教委）</p> <p>② 校内案内図にAEDの配置場所を表示（大教大池田小、明石高専、公立1校）</p> <p>③ PTA会員にAEDの配置場所を口頭で周知（大教大池田小）</p> <p>(2) 財団全国AEDマップへの登録状況</p> <p>ア 学校設置者における周知状況</p> <p>調査した11機関のうち、7機関（大教大、神大、5教委）は、文科省27年通</p> | <p>図表 4-1</p> <p>図表 4-2</p> <p>図表 4-3</p> <p>図表 4-4</p> |

知を学校に周知していない。

また、明石高専及び奈良高専は、独立行政法人国立高等専門学校機構から当該周知はなかったとしている。

#### イ 財団全国AEDマップへの登録・更新状況

調査した 19 校における財団全国AEDマップへの登録及び更新（電極パッド及びバッテリーの交換時期の入力）状況をみると、次のとおり、登録及び更新が適切に行われているAEDはなかった。

- |                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>① 全てのAEDが未登録：10 校（大教大平野中、神大附属小、神大中等校、明石高専、奈良高専、公立 5 校）</li><li>② 一部のAEDが未登録：5 校（大教大池田小、奈女大中等校、公立 3 校）</li><li>③ 登録されているAEDが全て未更新：9 校（大教大池田小、奈女大附属小、奈女大中等校、公立 6 校）</li></ul> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

未登録・未更新の理由について、19 校は、いずれも、「登録・更新が求められていることを知らなかった。」としている。

#### ウ 学校設置者等の意見

一部の学校設置者等から、財団全国AEDマップへの登録・公表に伴う支障として、次のような意見が聴かれた。

学校は、夜間休日だけでなく、平日も校門を施錠しており、地域住民がAEDを借りに来ても、使用できない又は使用までに時間を要するケースも考えられる。また、校内への部外者の立入りを認めることは、安全管理上の懸念が否定できない。

#### 【所見】

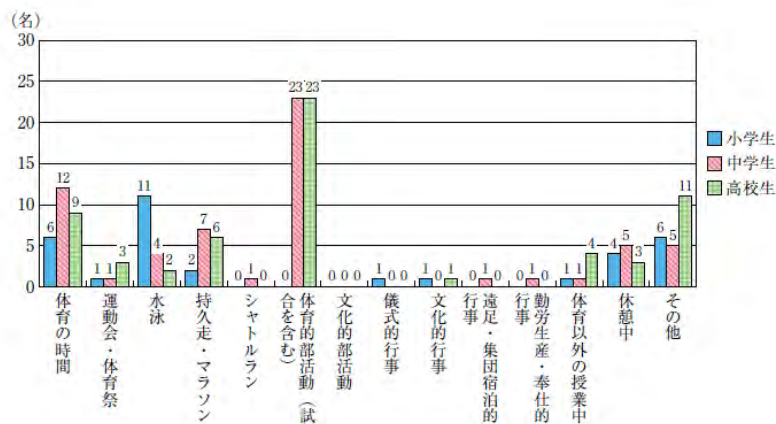
したがって、大教大、神大、奈女大、明石高専及び奈良高専は、AEDの設置情報を地域住民等に広く提供する観点から、以下の措置を講ずる必要がある。

- ① 大教大、神大及び奈女大は、附属学校に対し、日本救急医療財団にAEDの設置情報の登録・更新を行うよう指導する必要性について検討すること。
- ② 明石高専及び奈良高専は、日本救急医療財団にAEDの設置情報の登録・更新を行う必要性について検討すること。

図表 1-1 「学校における心肺蘇生とAEDに関する調査報告書」（平成 30 年 3 月 公益財団法人日本学校保健会）にみる AED の使用状況

全ての公立の小学校 19,794 校、中学校 9,479 校、高等学校 3,571 校、義務教育校 46 校、中等教育学校 31 校、特別支援学校 1,076 校を対象に調査（回答率 77%）

- ① 最近 5 年間（平成 24 年度～28 年度）に学校管理下で AED パッドを貼った件数  
小学校 232 校 (1.5%) 243 人、中学校 206 校 (2.9%) 221 人、高等学校 185 校 (6.3%) 209 人、中等教育学校 2 校 (8.0%) 2 人、特別支援学校 45 校 (5.2%) 51 人【計 670 校 726 人】  
うち、児童生徒は、小学校 118 校 123 人、中学校 145 校 153 人、高等学校 147 校 165 人、中等教育学校 2 校 2 人、特別支援学校 42 人【計 485 人】
- ② 最近 5 年間に学校管理下で AED のショックボタンを押した件数  
小学校 87 校 (0.6%) 87 人、中学校 80 校 (1.1%) 81 人、高等学校 72 校 (2.4%) 72 人、特別支援学校 10 校 (1.1%) 10 人【計 249 校 250 人】  
うち、児童生徒は、小学校 32 校 32 人、中学校 51 校 51 人、高等学校 56 校 56 人、特別支援学校 8 人（中等部 3 人、高等部 5 人）【計 147 人】
- （上記②を踏まえ、以下の項目は、小学生 32 人、中学生 54 人、高校生 61 人として解析）
- ③ 児童生徒に AED のショックボタンを押したケースで、後遺症なく回復した人数  
小学生 23 人 (71.9%)、中学生 36 人 (66.7%)、高校生 40 人 (65.6%)
- ④ 児童生徒に AED のショックボタンを押したケースで救命できなかった人数  
小学生 5 人、中学生 7 人、高校生 7 人
- ⑤ 児童生徒に AED のショックボタンを押した状況（複数例ある場合は複数回答可）  
小学生では、水泳、体育の時間、休憩中の順に多く、中学生・高校生では、体育的部活動、体育の時間、持久走・マラソンの順に多い。



（注）日本学校保健会の資料による。

図表 1-2 調査した 5 件の心停止事故の発生場面等

| 区分 | 発生場面           | 発生場所  |
|----|----------------|-------|
| 1  | 柔道の授業中         | 柔道場   |
| 2  | 体育の授業中（シャトルラン） | 体育館   |
| 3  | 体育の授業中（ランニング）  | 運動場   |
| 4  | 部活動中（ランニング）    | 職員玄関前 |
| 5  | 水泳の授業中         | プール   |

（注）当局の調査結果による。

図表 1-3 実際に救命活動を行った教員の意見

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>＜マニュアル及びシミュレーション訓練＞</p> <p>心停止事故の際に必要な対応や役割分担を明確には定めていなかったこともあり、心停止した児童生徒への対応に集中し、他の児童生徒を事故現場から移動させるのに時間を要してしまった。事前に想定していなかったことは、現場では対応できないことが分かり、必要な対応等を明確にした上で、平時からシミュレーション訓練を実施しておく必要性を感じた。</p> <p>＜複数の教職員等による連携＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事故現場に多数の教職員がいたため、動揺することなく冷静に対応することができた。複数の教職員が連携して役割分担することにより迅速に対応できた。</li> <li>○ プールに内線電話が設置されていたため、迅速に教職員の応援要請ができ、多くの教職員で対応できた。</li> <li>○ 事故の発生を伝えに来たのが教員で、詳しい状況説明があったため、事故の重大性・緊急性をすぐに理解できた。しかし、児童生徒が伝えに来るケースでは、的確に説明できないことも想定されるため、事故の状況を的確に説明できるよう児童生徒に教えることが必要と感じた。</li> <li>○ 事故の発生を伝えに来た児童生徒の説明が「倒れた子がいる。」という程度であったため、AEDを持たずに事故現場に向かい、病状を確認してからAEDを手配した。児童生徒が倒れた場合には、まずはAEDを持って現場に向かうことが必要だと感じた。</li> </ul> <p>＜現場からの 119 番通報＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 管理職の判断を待たず、教員が 119 番通報可能としていたため、迅速に通報できた。</li> <li>○ 事故現場にいた教員が携帯電話を所持していたため、その場からすぐに救急車を要請することができた。</li> <li>○ 携帯電話により事故現場から通報できたため、心停止した児童生徒の様子をリアルタイムで消防署に説明でき、また、消防署からの指示も救助者にすぐに伝えることができた。</li> </ul> <p>＜AEDの適正な配置＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動中に心停止発生リスクが高まることを考慮して、水泳の授業時にAEDをプールに移動させていたため、迅速にAEDを使用できた。</li> <li>○ AEDの配置場所の見直しを行い、誰もがすぐに分かる場所に専用ボックスに入れて配置していたため、迅速にAEDを取りに行くことができた。</li> </ul> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### <心肺蘇生やAEDの使用に関する研修>

- 事故の直前に、心肺蘇生とAEDの使用に関する研修を受講していたため、迷うことなく自信を持って対応することができた。
- 研修を受講して、死戦期呼吸※について理解していたため、正常な呼吸ができていないことが判断できた。

※ 「突然の心停止直後には『死戦期呼吸』と呼ばれるしゃくりあげるような途切れ途切れの呼吸がみられることも少なくありません。このような呼吸がみられたら心停止と考えて、胸骨圧迫を開始してください。」（「救急蘇生法の指針 2015 市民用」（厚生労働省）から抜粋）

- 研修を受講して、電気ショックの要否はAEDが判断すると知っていたため、ためらわずに電極パッドを装着し、電気ショックのボタンを押すことができた。
- 研修を受講した経験が少なかったため、AEDをうまく使用できるか自信がなく、そばにいた養護教諭に任せた。ためらわずにAEDを使用できるようにするためには、研修を繰り返し受講しておくことが重要と感じた。また、養護教諭が不在の場合もあるため、全ての教職員がAEDを使用できるようにしておく必要がある。
- 保健体育の授業で児童生徒に心肺蘇生について繰り返し教えていたため、的確に心肺蘇生等を行うことができた。

#### <その他>

児童生徒は救命されたものの、事故後、数週間は救命活動の記憶がフラッシュバックした。「もっとうちでいなければよかったのではないか。」「救命の手順に誤りはなかったか。」「児童生徒に後遺症が残らないか。」といった考えが頭から離れなかった。

（注）当局の調査結果による。

図表 2-1 「第 2 次学校安全の推進に関する計画」(平成 29 年 3 月 24 日閣議決定)(抜粋)

Ⅲ 学校安全を推進するための方策

1. 学校安全に関する組織的取組の推進

(1)～(2) (略)

(3) 学校安全に関する教職員の研修及び教員養成の充実

〈課題・方向性〉 (略)

〈具体的な方策〉

(中略)

- 教育委員会や学校は、(中略)全ての教職員が学校安全に関する研修等を受けることができるよう、研修機会の充実を図るだけでなく、校務の見直しや負担軽減等により研修を受けるための時間の確保に取り組むことも必要である。

研修においては、(中略)自動体外式除細動器(AED)の適切な使用を含む心肺蘇生に関する適切な対応方法等に関する内容を扱うことが重要である。

(後略)

2. (略)

3. 学校の施設及び設備の整備充実

(1) (略)

(2) 学校における非常時の安全に関わる設備の整備充実

〈課題・方向性〉 (略)

〈具体的な方策〉

- AEDや防犯設備等は、非常時に有効に活用できなければならないことから、学校は、定期的な点検・管理や複数配置を含む設置場所の適正化、教職員の使用訓練を行うことが必要である。また、学校以外の施設における事故等も参考にしながら、設備等の必要な改善措置を講じることが重要である。

(以下略)

図表 2-2 「自動体外式除細動器（AED）の適正配置に関するガイドラインの補訂について」（令和元年 5 月 17 日付け医政発 0517 第 12 号文部科学大臣官房長宛て厚生労働省医政局長通知）

医政発 0517 第 12 号

令和元年 5 月 17 日

文部科学省大臣官房長 殿

厚生労働省医政局長

（公 印 省 略）

自動体外式除細動器（AED）の適正配置に関するガイドラインの補訂について

自動体外式除細動器（以下「AED」という。）については、「非医療従事者による自動体外式除細動器（AED）の使用について」（平成 16 年 7 月 1 日付医政発第 0701001 号厚生労働省医政局長通知）により非医療従事者である一般市民にも使用が認められて以降、学校、駅、公共施設、商業施設等を中心に急速に普及してきました。

今般、一般財団法人日本救急医療財団「非医療従事者による AED 使用のあり方特別委員会」において検討がなされ、別添のとおり「AED の適正配置に関するガイドライン」（平成 25 年 9 月 27 日付医政発 0927 第 9 号）の補訂が取りまとめられましたので情報提供いたします。

このため、今般、このガイドラインを参考にし、AED の効果的かつ効率的な設置拡大を進めていただくよう、別添のとおり、各都道府県知事あて通知したので、貴職におかれては、その内容について御了知いただくとともに、貴省庁等所管の学校、医療機関、交通機関、商業施設等の関係団体に対して、当該通知の内容について周知いただきますよう御協力願います。

図表 2-3 「AEDの適正配置に関するガイドライン」(平成 25 年 9 月 9 日作成 (30 年 12 月 25 日補訂) 一般財団法人日本救急医療財団)(抜粋)

### 3. AEDの施設内での配置方法

(中略)

居合わせた人にその処置をゆだねるという性質上、ある程度高い救命率が期待できる状況で、AEDの使用を促す必要があり、以下のように電気ショックまでの時間を短縮するような配置上の工夫が望まれる。

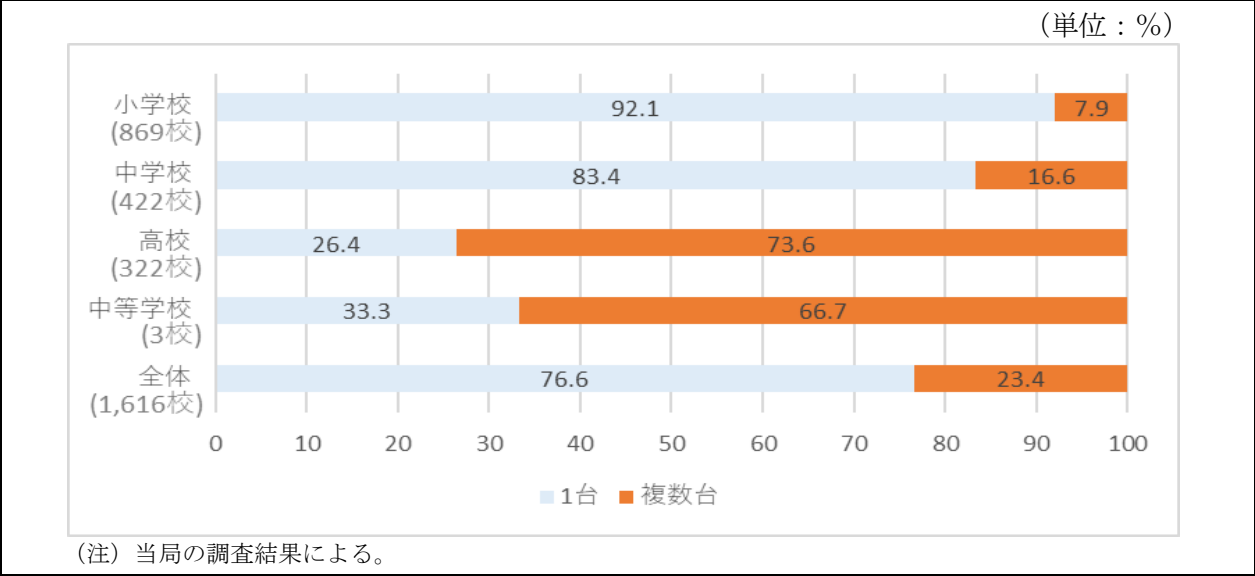
- (1) 目撃された心停止の大半に対し、心停止発生から長くても 5 分以内にAEDの装着ができる体制が望まれる。そのためには、施設内のAEDはアクセスしやすい場所に配置されていることが望ましい。たとえば学校では運動に関連した心停止が多いことから、保健室より運動施設への配置を優先すべきである。
- (2) AEDの配置場所が容易に把握できるように施設の見やすい場所に配置し、位置を示す掲示、あるいは位置案内のサインボードなどを適切に掲示することが求められる。
- (3) AEDを設置した施設の全職員が、その施設内におけるAEDの正確な設置場所を把握していることが求められる。
- (4) 可能な限り 24 時間、誰もが使用できることが望ましい。使用に制限がある場合は、AEDの使用可能状況について情報提供することが望ましい。地方公共団体による行政監査で、AED収納ボックスが施錠されていたケースなどが指摘されている。
- (5) インジケータが見えやすく日常点検がしやすい場所への配置、温度(夏場の高温や冬場の低温)や風雨による影響などを考慮し、壊れにくい環境に配置することも重要である。

表 3 : 施設内でのAEDの配置に当たって考慮すべきこと

1. 心停止から 5 分以内に電気ショックが可能な配置
  - 現場から片道 1 分以内の密度で配置
  - 高層ビルなどではエレベーターや階段等の近くへの配置
  - 広い工場などでは、AED配置場所への通報によって、AED管理者が現場に直行する体制、自転車やバイク等の移動手段を活用した時間短縮を考慮
2. 分かりやすい場所(入口付近、普段から目に入る場所、多くの人が通る場所、目立つ看板)
3. 誰もがアクセスできる(カギをかけない、あるいはガードマン等、常に使用できる人がいる)
4. 心停止のリスクがある場所(運動場や体育館等)の近くへの配置
5. AED配置場所の周知(施設案内図へのAED配置図の表示、エレベーター内パネルにAED配置フロアの明示等)
6. 壊れにくく管理しやすい環境への配置



図表 2-4 調査した学校設置者が把握していた学校のAED設置状況



図表 2-5 調査した学校におけるAEDの配置場所

| 学校名    | 設置台数 | 配置場所 |     |     |    |     |         |
|--------|------|------|-----|-----|----|-----|---------|
|        |      | 職員室  | 事務室 | 保健室 | 玄関 | 体育館 | その他     |
| 大教大池田小 | 5台   | ○    | ○   | ○   |    | ○   | 警備員室    |
| 神大附属小  | 2台   | ○    |     | ○   |    |     |         |
| 奈女大附属小 | 1台   | ○    |     |     |    |     |         |
| a 小学校  | 1台   | □    |     |     |    |     |         |
| b 小学校  | 1台   | □    |     |     |    |     |         |
| c 小学校  | 1台   | □    |     |     |    |     |         |
| d 小学校  | 1台   |      |     |     | ○外 |     |         |
| e 小学校  | 1台   |      |     |     |    |     | 運動場出入口  |
| 大教大平野中 | 3台   |      | ○   |     | ○  | ○外  |         |
| f 中学校  | 2台   | ○    |     |     |    |     |         |
|        |      | ○    |     |     |    |     |         |
| g 中学校  | 1台   | □    |     |     |    |     |         |
| h 中学校  | 1台   | □    |     |     |    |     |         |
| i 中学校  | 1台   | ○    |     |     |    |     |         |
| j 中学校  | 2台   | ○    |     |     |    | ○   |         |
| k 高校   | 2台   |      |     |     | ○  | ○   |         |
| l 高校   | 4台   |      |     | △   | ○外 | ○外  |         |
|        |      |      |     |     |    | ○   |         |
| m 高校   | 2台   |      |     |     | ○外 | ○外  |         |
| 神大中等校  | 4台   |      |     | ○   | ○  | ○   | 校舎3階    |
| 奈女大中等校 | 2台   |      |     |     | ○  | ○外  |         |
| 明石高専   | 3台   |      |     |     | ○外 | ○   | 学生寮     |
| 奈良高専   | 3台   |      |     |     | ○  |     | 学生寮     |
|        |      |      |     |     |    |     | 図書館横(外) |

(注) 1 当局の調査結果による。  
2 「職員室」の□印は職員室前廊下、「保健室」の△印は保健室前廊下を示す。  
3 表内の「外」は、屋外配置を示す。

図表 2-6 AEDの運搬に片道1分以上要するとみられる事例（奈良高専）

3台のAEDは、敷地の南側に偏って配置されており、また、本館のAED（■）と図書館横のAED（▲）が隣接している。

このため、グラウンドの西側にある野球場で心停止事故が発生した場合、最も近い図書館横のAED（▲）まで約300m離れており、AEDの運搬に片道1分以上を要するとみられる。

なお、奈良高専は、「AEDの運搬に時間を要するおそれがあり、配置場所の見直しを検討する余地がある。」としている。



（注）学生寮にあるAED（●）から野球場までは、図書館横のAED（▲）近くにあるグラウンド入口経由となるため、図書館横のAEDが最も近いものとなる。

（注）当局の調査結果による。

図表 2-7 AEDの使用に時間を要するおそれがある事例（明石高専）

学生が在籍していても、体育館が施錠された場合、体育館内に配置されているAED（★）は解錠しなければ使用できない。

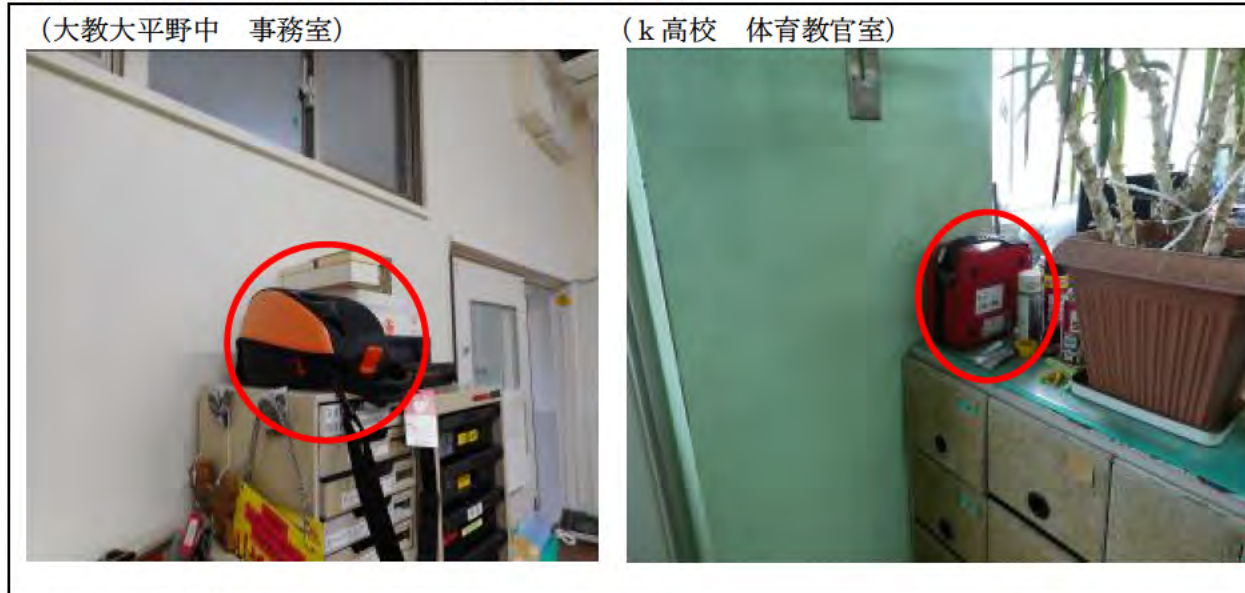
体育館施錠時に、体育館の南側にあるプールや武道場で心停止事故があった場合、体育館を解錠して★のAEDを使用するか、離れた場所にある●のAEDを運搬することになり、その使用に時間を要するおそれがある。

なお、明石高専は、「AEDの使用に時間を要するおそれがあり、配置場所の見直しを検討する余地がある。」としている。



（注）当局の調査結果による。

図表 2-8 掲示がなく AED の位置が分かりにくい事例



(注) 当局の調査結果による。

図表 2-9 AED の位置を分かりやすく掲示している取組



(注) 当局の調査結果による。



図表 2-10 「学校の危機管理マニュアル作成の手引」（平成 30 年 2 月 文部科学省）（抜粋）

### 3 章 個別の危機管理

#### 3-1 事故発生時の対応の基本

##### 1 （略）

##### 2 登下校時及び校外活動時における事故等発生時の留意点

（中略）

〈事前の対策〉

（中略） 校外でマラソン大会を行う場合や部活動で遠征する場合など、AEDを使用することが考えられる場合は、事前に設置箇所を確認し、必要に応じて活動場所に持参するなどの対応が必要です。また、使用方法等について教職員間で確認しておく必要があります。

図表 2-11 校内でAEDを運動の場面に移動させている取組



（奈女大附属小）

水泳の授業時（6 月～8 月）にAEDを職員室からプールに移動

（注）当局の調査結果による。

図表 2-12 「自動体外式除細動器（ＡＥＤ）の適切な管理等の実施について（注意喚起及び関係団体への周知依頼）」（平成 21 年 5 月 29 日付け各国公私立大学事務局、各国公私立高等専門学校事務局、各都道府県・指定都市教育委員会総務課等宛て文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課事務連絡）の別紙（抜粋）

ＡＥＤの設置者等が行うべき事項等について

1. 点検担当者の配置について

ＡＥＤの設置者（ＡＥＤの設置・管理について責任を有する者。施設の管理者等。）は、設置したＡＥＤの日常点検等を実施する者として「点検担当者」を配置し、日常点検等を実施して下さい。

なお、設置施設の規模や設置台数等から、設置者自らが日常点検等が可能な場合には、設置者が点検担当者として日常点検等を実施しても差し支えありません。点検担当者は複数の者による当番制とすることで差し支えありません。

また、特段の資格を必要とはしませんが、ＡＥＤの使用に関する講習を受講した者であることが望ましいです。

2. 点検担当者の役割等について

ＡＥＤの点検担当者は、ＡＥＤの日常点検等として以下の事項を実施して下さい。

1) 日常点検の実施

ＡＥＤ本体のインジケータのランプの色や表示により、ＡＥＤが正常に使用可能な状態を示していることを日常的に確認し、記録して下さい。

なお、この際にインジケータが異常を示していた場合には、取扱説明書に従い対処を行い、必要に応じて、速やかに製造販売業者、販売業者又は賃貸業者（以下「製造販売業者等」という。）に連絡して、点検を依頼して下さい。

2) 表示ラベルによる消耗品の管理

製造販売業者等から交付される表示ラベルに電極パッド及びバッテリーの交換時期等を記載し、記載内容を外部から容易に確認できるようにＡＥＤ本体又は収納ケース等に表示ラベルを取り付け、この記載を基に電極パッドやバッテリーの交換時期を日頃から把握し、交換を適切に実施して下さい。

なお、今後新規に購入するＡＥＤについては、販売時に製造販売業者等が必要事項を記載した表示ラベルを取り付けることとしています。

3) 消耗品交換時の対応

電極パッドやバッテリーの交換を実施する際には、新たな電極パッド等に添付された新しい表示ラベルやシール等を使用し、次回の交換時期等を記載した上で、ＡＥＤに取り付けて下さい。

3. ＡＥＤの保守契約による管理等の委託について

ＡＥＤの購入者又は設置者は、ＡＥＤの販売業者や修理業者等と保守契約を結び、設置されたＡＥＤの管理等を委託して差し支えありません。

（注）下線部分は、原文に付されているものである。

図表 2-13 「AEDの適切な管理等の実施に係るQ & A」（厚生労働省ウェブサイト）（抜粋）

|                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>・ 日常点検について</p> <p>Q7～Q8 （略）</p> <p>Q9 インジケータの確認は、毎日、行わなければなりませんか。</p> <p>A AEDは本体にプログラムされた自己診断機能により、毎日、毎週、毎月のサイクルで機能チェックを行なっていますので、点検担当者は、取扱説明書に従い日常的に、その結果を確認して下さい。</p> <p>ただし、設置された施設や事業所の休日などで、AEDを使用しないことが明らかな時には、点検を実施しなくても構いません。設置場所などを十分考慮の上、適切に点検を行なって下さい。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

図表 2-14 「AEDの点検、ここがポイント」（厚生労働省ウェブサイト）（抜粋）

|                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>耐用期間の確認</p> <p>AED本体の耐用期間は、使用環境、稼働時間や使用回数などを考慮し、製造・販売会社が設定しています。</p> <p>耐用期間はAEDの添付文書、取扱説明書に記載されていますので、必ず確認しておきましょう。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

図表 2-15 AEDの日常点検が未実施又は不十分な事例

| 学校名    | 台数   | 事例の内容                                      | 発生原因                                                                                                            |
|--------|------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 奈良高専   | 3 台  | 点検担当者が定められておらず、日常点検を未実施                    | 文科省 21 年通知を不承知<br>点検担当者の設置や日常点検の必要性を認識していなかった。                                                                  |
| i 中学校  | 1 台  |                                            |                                                                                                                 |
| e 小学校  | 1 台  |                                            |                                                                                                                 |
| j 中学校  | 2 台  |                                            |                                                                                                                 |
| f 中学校  | 1 台  |                                            |                                                                                                                 |
| k 高校   | 1 台  | 1 週間に 1 回しか日常点検を実施していない（取扱説明書上の点検頻度は毎日）。   | 文科省 21 年通知を不承知<br>日常点検は 1 週間に 1 回が適切と判断。取扱説明書上の頻度を認識していなかった。                                                    |
|        | 1 台  |                                            |                                                                                                                 |
| 奈女大付属小 | 1 台  | 1 か月に 1 回しか日常点検を実施していない（取扱説明書上の点検頻度は毎日）。   | 文科省 21 年通知を不承知<br>大学から最低 1 か月に 1 回点検するよう指示があった。<br>なお、神大は、「日常点検は 1 か月に 1 回が適切と判断し附属学校に指示した。取扱説明書を確認していなかった。」と説明 |
| 神大附属小  | 2 台  |                                            |                                                                                                                 |
| 神大中学校  | 4 台  |                                            |                                                                                                                 |
| 奈女大中学校 | 2 台  | 点検担当者が休暇等で不在時に点検が未実施（令和元年 8 月の点検は 7 日間のみ。） | 文科省 21 年通知を不承知<br>点検担当者が不在時の対応を取り決めていなかった。                                                                      |
| d 小学校  | 1 台  | 日常点検を実施しているが、点検結果を記録していない。                 | 文科省 21 年通知を不承知<br>記録の必要性を認識していなかった。                                                                             |
| m 高校   | 2 台  |                                            |                                                                                                                 |
| (合計)   | 22 台 | —                                          | —                                                                                                               |

（注）当局の調査結果による。

図表 2-16 AEDのバッテリー、電極パッドの使用期限を超過している事例

| 学校名   | 事例の内容                                                | 契約形態 |
|-------|------------------------------------------------------|------|
| k 高校  | バッテリーの使用期限を 1 か月超過 (1 台)<br>電極パッドの使用期限を 5 か月超過 (1 台) | 購入   |
| i 中学校 | 電極パッドの使用期限を 7 か月超過 (1 台)                             | リース  |

- (注) 1 当局の調査結果による。  
 2 超過期間は、当局の調査日現在で算出した。  
 本表に挙げたバッテリーの使用期限は 4 年。電極パッドの一般的な使用期限は 24 か月～30 か月である。

図表 2-17 バッテリー、電極パッドの使用期限の超過理由

| 学校名   | 超過理由                                                                                                                                                                 |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| k 高校  | <p>【バッテリー】</p> <p>当該AEDについては、点検担当者が定められておらず、日常点検を未実施であったこともあり、使用期限の超過に気付かなかった。</p> <p>【電極パッド】</p> <p>当該AEDについては、日常点検を実施し、使用期限が切れることは承知していたが、事務手続の失念のため、交換が遅れている。</p> |
| i 中学校 | <p>リース業者から学校に新しい電極パッドが送付されていたが、交換担当者が交換することを失念していた。</p> <p>点検担当者が定められておらず、日常点検が未実施のこともあり、7 か月間交換漏れを把握できなかった。</p>                                                     |

(注) 当局の調査結果による。

図表 2-18 AEDの耐用期間を超過している事例

| 学校名    | 超過台数 | 超過期間     | 契約形態 |
|--------|------|----------|------|
| 明石高専   | 1 台  | 8 年 1 か月 | 購入   |
| 神大附属小※ | 1 台  | 4 年 8 か月 | 購入   |
| 神大中学校  | 1 台  | 1 年 8 か月 | 購入   |
| f 中学校  | 1 台  | 1 年 5 か月 | 購入   |
| l 高校   | 1 台  | 10 か月    | 購入   |

- (注) 1 当局の調査結果による。  
 2 超過期間は、当局の調査日現在で算出した。  
 本表に挙げたAEDの耐用期間は 7 年又は 8 年で設定されていた。  
 3 ※印のAEDは、調査途中の令和元年 12 月に更新済みである。

図表 2-19 耐用期間の超過理由

| 学校名            | 超過理由                                                                                                                                                                             |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 明石高専<br>1 高校   | A E D に耐用期間が設定され、更新が必要であることを知らなかった。                                                                                                                                              |
| f 中学校          | 教委から耐用期間を超過していない A E D を使用するよう指導があったが、A E D の点検担当者を定めていないなど、耐用期間を管理していなかったため、超過していることに気付かなかった。                                                                                   |
| 神大附属小<br>神大中学校 | 《神大》<br>附属学校にある A E D の耐用期間の管理は大学が行っている。<br>附属学校を含む大学施設には、同時期に多数の A E D が導入されたため、耐用期間満了時点での更新が予算的に困難となり、更新計画等は定めず、可能なものから適宜更新を進めていた。<br>なお、平成 30 年度に A E D の更新計画を策定し、順次更新を進めている。 |

(注) 当局の調査結果による。

図表 2-20 A E D の耐用期間を表示ラベルにより管理している取組



(注) 当局の調査結果による。



図表 3-1 学校保健安全法（昭和 33 年法律第 56 号）（抜粋）

|                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>（危険等発生時対処要領の作成等）</p> <p>第二十九条 学校においては、児童生徒等の安全の確保を図るため、当該学校の実情に応じて、危険等発生時において当該学校の職員がとるべき措置の具体的内容及び手順を定めた対処要領（次項において「危険等発生時対処要領」という。）を作成するものとする。</p> <p>2 校長は、危険等発生時対処要領の職員に対する周知、訓練の実施その他の危険等発生時において職員が適切に対処するために必要な措置を講ずるものとする。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

図表 3-2 「学校事故対応に関する指針」（平成 28 年 3 月 文部科学省）（抜粋）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 事故発生の未然防止及び事故発生に備えた事前の取組</p> <p>(1) 教職員の資質の向上（研修の実施）</p> <p>○ 危機管理マニュアルの内容の教職員への周知と訓練を進め、事件・事故災害が発生した際には、児童生徒等の安全確保及び応急手当等、全教職員が各学校の危機管理マニュアルに基づく対応ができるよう備えておくことが必要である。</p> <p>(2)～(3) （略）</p> <p>(4) 各種マニュアルの策定・見直し</p> <p>○ 各学校は、危機管理マニュアルを必ず策定する（学校保健安全法第 29 条で策定が義務付けられている。）。なお、本マニュアルは、危険等が発生した際に教職員が円滑かつ的確な対応を図るために作成するものであることから、毎年度、訓練等の結果を踏まえて、絶えず検証・見直しを行い、実効性のあるマニュアルに改訂する。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

図表 3-3 「学校の危機管理マニュアル作成の手引」（平成 30 年 2 月 文部科学省）（抜粋）

|                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 章 危機管理マニュアルについて</p> <p>1-1 各学校における危機管理マニュアルの作成について</p> <p>1 学校における危機管理マニュアル作成・見直しの考え方・手順</p> <p>&lt;見直し・改善のポイント&gt;</p> <p>作成した学校独自の危機管理マニュアルは、実際に機能するかどうか訓練等を基に検証し、定期的に見直し・改善を行う必要があります。（以下略）</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

図表 3-4 危機管理マニュアルの内容やシミュレーション訓練の必要性に関する有識者の意見

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○ 心停止事故の救命活動を行った者から、「自分が救助できるのか。」「手順に誤りがないか。」「助けられなかったらどうなるのか。」といった迷いがあったとの意見がみられる。こういった心理的な障壁を無くすためにも、心停止事故発生時にどのような状況になるリアリティを持たせることが重要で、シミュレーション訓練を行うことが必要である。</p> <p>○ 心停止事故発生時に迅速・的確に対応するためには、対応マニュアルを作成しておくことが必要であり、対応すべき事項を端的に記載したアクションカード等を活用することが望ましい。</p> <p>○ 迅速な対応が求められる救命活動時には、複数の者がチーム（組織力）となって、それぞれの役割を果たすことが重要になる。この組織力の基になるのが、各人が認識しておくべき「共通理解事項」を定めたマニュアルであり、シミュレーション訓練である。</p> <p>マニュアルに基づきシミュレーション訓練を行い、その結果を検証することで、これまで想定できなかった課題が判明し、マニュアルの見直しや改善措置を図ることが重要である。</p> <p>○ マニュアルには、心停止事故発生時に行うべきことを定めるだけでなく、どのような方法で行</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

うかまでを記載することが重要である。例えば、①教職員の応援要請については、校内放送や内線電話、②119番通報については、職員室の電話や現場からの携帯電話、③AEDの運搬については、教職員や児童生徒などがある。

(注) 当局の調査結果による。

図表 3-5 シミュレーション訓練を実施している理由

| 理 由                                                                | 学校数 |
|--------------------------------------------------------------------|-----|
| 自校や他校で心停止事故が発生した。                                                  | 4 校 |
| 心停止事故の発生時には、119 番通報、心肺蘇生、AED の運搬等を手分けして行うことになり、意識の統一や対応の確認が必要と考えた。 | 4 校 |
| 持病がある児童生徒がおり、救命活動を行う可能性が高い。                                        | 1 校 |

(注) 当局の調査結果による。

図表 3-6 シミュレーション訓練の様子（A 教委管内の学校）

＜シチュエーションの例： 屋外で女子生徒が突然倒れた＞



○ 訓練では、児童生徒が倒れてからの対応（意識の確認、応援要請、AEDの手配、119番通報等）を行い、要した時間も計測

○ 訓練に参加した消防署員は、119番通報時に行っている電話応対や現場到着後の動きを再現

(注) 当局の調査結果による。

図表 3-7 A 教委管内の学校におけるシミュレーション訓練の実施方法

|       |                                                                                                                           |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 目 的   | 心停止発生時の初動、応急手当、消防機関との連携等についてのシミュレーション訓練を行った上で改善すべき課題等を確認するとともに、教職員同士の連携に主眼を置いたマニュアルを作成し、マニュアルに基づいた訓練を定期的実施することで不測の事態に備える。 |
| 訓練対象者 | 全教員                                                                                                                       |
| 実施内容  | ① 動画により、誰が、どこで、どのように倒れたか等のシチュエーションを説明<br>養護教諭は不在の想定で、教職員は先生役と生徒役に分かれ、各自が必要な対応を判断し、連携して実施<br>＜参考① シミュレーション訓練実施要項参照＞        |

|    |                                                                                                                                                              |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | <p>② 訓練を通じた気づきや課題を「振り返りシート」に記載し、教職員間で意見交換を行う。</p> <p>＜参考② シミュレーション訓練振り返りシート参照＞</p> <p>③ 上記意見交換結果を踏まえ、必要な改善措置を行う。</p>                                         |
| 特色 | <p>① 教職員同士の連携に着目し、訓練を実施</p> <p>② 事前にシナリオが示されず、参加者はその場で必要な対応を判断して行動するなど、実践的な形式</p> <p>③ 訓練結果を踏まえて、より実践的な危機管理マニュアルへの改訂や、救命活動時の手順や方法について教職員間での認識の共有が行われている。</p> |

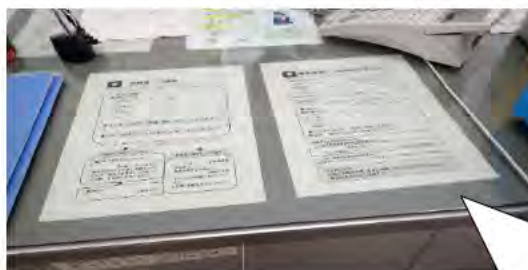
（注）当局の調査結果による。

図表 3-8 シミュレーション訓練により判明した課題と改善措置

| 課 題                                     | 改善措置                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 危機管理マニュアルの記述が抽象的で分かりにくい。                | <p>危機管理マニュアルに、事故現場と職員室で必要な対応をチェックリスト形式で記載</p> <p>危機管理マニュアルに、AED、担架、保健調査票（児童生徒の既往歴等が記載）等の配置場所や、非常持出袋内の物品について記載</p> <p>＜危機管理マニュアルの記載内容＞</p>  |
| 事故時には焦りや混乱が生じるため、必要な対応を一目で分かるようにすることが必要 | <p>救急発生時に必要な対応を箇条書きにしたものを作成。職員室の壁や電話横に掲示したほか、職員の名前ホルダー裏面に記載</p> <p>＜職員室への掲示＞</p>                                                            |



## <職員室内の電話機>



**救急要請（119番通報）のポイント** ◆あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝える。

### 1 救急であることを伝える

「火事ですか？救急ですか？」 救急車をお願いします。

### 2 住所を伝える

（学校名）です。（住所）です。〇〇側の正門から入ってください。誘導します。

### 3 状況を伝える

「いつ、だれが、どうして、現在どのような状況なのか」わかる範囲で伝える。

- 名前、年齢、性別
- 受傷の状況（いつ（時間）、どこで（場所）、どこを（部位）、どうした（受傷経緯））
- 今の本人の症状（意識、呼吸、出血など）
- 対応（胸骨圧迫、AEDの使用、止血など）

### 4 通報者の氏名と連絡先を伝える

119番通報後も連絡可能な電話番号を伝える。

通報者の名前は〇〇

学校の電話番号は△△△ もしくは通報者の携帯電話

### 5 119番 通信司令員の指示をあおぐ

「救急車を待つ間、何かしておくことはありますか。」

⇒指導があれば、養護教諭等に伝える。

救急車到着後・・・

- ・記録用紙、保健調査票、教員の携帯、AED（使用すれば）を持って行く。
- ・搬送先を保護者へ連絡する。

※ 上記の写真の左側には、「保護者への連絡のポイント」を配置

## <名前ホルダー裏面>



**119番通報：救急車をお願いします！**

- 住所：〇〇〇〇 △△門から入って
- 〇年生 男女 名前（ ）
- 「いつ どこで どこを どうした」
- 「意識 呼吸 出血 けいれん」
- 「心肺蘇生 AED 止血 エピペン」

- 通報者氏名と連絡先（電話番号）

- 救急車到着までにしておくことはありますか？

**保護者連絡：冷静に、事実だけを述べる**

|                                 |                                                                                                                                                  |
|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 救急車の進入経路等について教職員間で共有することが必要     | 119 番通報の手段・内容や救急車の進入経路等について、共通理解事項として整理<br>＜参考③ 救急対応の共通理解事項参照＞                                                                                   |
| 緊急時であることを考慮し、事故対応経過を記録しやすい様式が必要 | 緊急時記録用紙を以下のとおり改訂 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現場で行うべき事項をチェックリスト形式で記載</li> <li>・ 迅速に記載できるよう時間のみを記入するものとした。</li> </ul> ＜参考④ 緊急時記録用紙参照＞ |

（注）当局の調査結果による。

## 参考① シミュレーション訓練実施要項

|                |
|----------------|
| シミュレーション訓練について |
|----------------|

学校のどこかで、誰かが突然倒れた、という想定事案に対する模擬訓練を行います。

- ① 発生状況について

スクリーンに約 1 分間の動画を上映し、誰が、どこで、どのように倒れるかをお見せします。先生役の方は、この動画を見ることができません。誰に何が起こったかは、職員室に知らせに来た人（先生・生徒）から情報を得てください。
- ② 訓練開始のタイミング

動画が終了した後、司会者の合図で訓練を開始します。
- ③ 生徒役の先生へ

人が突然倒れて動かないという状況を、生徒が目撃した場合にとるだろう行動や言動を演じてください。気の利いた感じになりすぎたり、オーバーリアクションでふざけた感じにならないように。
- ④ 事案発生場所

視聴覚室を発生場所とします。応援にかけつける場所は視聴覚室なので、間違いないように。
- ⑤ 最初に負傷者に接する先生へ

必ず、反応と呼吸を確認してください。心停止でない場合もあります（司会者が負傷者の状況を伝えます。）。)
- ⑥ AED

いつも保管されている場所に、「訓練用 AED」が置いてあります。
- ⑦ 救急車の要請

要請する際、119 番にかけるのではなく、所定の番号に実際に電話をしてください。電話番号は、職員室の電話と、訓練場所に掲示しています。消防スタッフが 119 番通報を受けた時と同様の対応をします。
- ⑧ 救急車誘導

誘導する先生は、視聴覚室（正門と記した場所）に来て、救急隊が声をかけるまで待機してください。119 番通報後、7 分後に救急車が到着します。救急隊がきたら、航空写真上で門から現場までのルートを指示してください。
- ⑨ 保護者連絡

連絡をする先生は、所定の番号に電話をしてください。  
連絡先が書かれたものは、あるべき場所に置いてあります。

⑩ 救急隊への申し送り

傷病者が倒れた時の状況や、普段の健康状態を救急隊が質問するので答えてください。

⑪ 訓練終了後のお願い

訓練終了の合図を司会者がします。職員室にいる先生方も直ちに視聴覚室に集まってください。

⑫ 振り返りシートへの記入

シミュレーション訓練を見学する先生方は、気づきや改善点などを「振り返りシート」にメモしながら見学してください。

訓練に参加した先生方は終了後に記入をお願いします。

グループディスカッションについて

3つのグループに分けて意見交流します。「振り返りシート」を参考に、先生方の気づきや改善点など出してください。進行は、各グループの司会役を中心に、記録係の先生は、最後に発表をしていただきます。

(注) 調査対象とした学校が作成した「シミュレーション訓練実施要項」による。

## 参考② シミュレーション訓練振り返りシート

| 緊急時シミュレーション研修アンケート                                                                  |               |                          |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------------------------|--|
| この研修会を通して、本校の緊急事案発生時の体制について、先生方の気づきや問題点などご意見をいただき、今後の課題として役立てたいと思います。ご協力よろしくお願いします。 |               |                          |  |
| 問題なければチェックを入れてください。                                                                 |               |                          |  |
| 項目                                                                                  |               | 気づき ・ 問題点                |  |
| 環境<br>機材<br>等                                                                       | AED 設置場所・保管方法 | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | 緊急持ち出し袋       | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | 保健室の鍵保管       | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | 保健調査票の保管      | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | 家庭調査票の保管      | <input type="checkbox"/> |  |
| 傷病者<br>他生徒<br>対応                                                                    | 応援要請・召集方法     | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | 心肺蘇生の手技       | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | AED 操作方法      | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | 傷病者配慮         | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | 他生徒対応         | <input type="checkbox"/> |  |
| 消防<br>対応                                                                            | 119 連絡手段      | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | 119 通報内容      | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | 救急車誘導         | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | 救急隊対応         | <input type="checkbox"/> |  |
| 保護者<br>対応                                                                           | 連絡手段          | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | 連絡内容          | <input type="checkbox"/> |  |
| 情報<br>収集                                                                            | 記録方法・記録用紙     | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | 管理職報告         | <input type="checkbox"/> |  |
| 統括<br>連携                                                                            | 現場統括          | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | 職員室統括         | <input type="checkbox"/> |  |
|                                                                                     | 現場と職員室連携      | <input type="checkbox"/> |  |
| その他<br>課題                                                                           |               |                          |  |

ご協力ありがとうございました。

(注) 本資料は、A 教委が管内の公立学校に示したものである。

## 参考③ 救急対応の共通理解事項（抜粋）

| 事故発生時の対応                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 救急車の進入は、正門（○門（注：実際は消防署が呼ぶ門の名称を記載））から誘導する。                                            |
| ② 119 番通報は、管理職以外でも通報でき、携帯電話を使用してもよい（名前ホルダーの裏に 119 番通報方法について記載あり）。ただし、通報後は速やかに管理職に報告する。 |
| ③ 緊急時必要であれば、笛（名前ホルダーに付属）を鳴らしたり、緊急校内放送をしたりして、現場の人員確保に努める。                               |

- ④ 時系列の記録をしっかりと行う（AED、非常持ち出し袋に記録用紙と筆記用具あり）。  
また、必要があれば、現場の写真を撮っておく。
- ⑤ 救急隊への情報伝達は、保健調査票を活用し、既往歴やアレルギーなどを伝える。
- ⑥ 職員室（職員本部）と事故現場との情報共有を速やかにしっかりと行う。
- ⑦ AEDを取り出した後は、AED BOXの扉を開けたままにしておく（警告音が鳴り続け緊急事態であることを周りに知らせることができるため。）。

（注）調査対象とした学校が作成した「救急対応の共通理解事項」による。

#### 参考④ 緊急時記録用紙

| 緊急時記録用紙                                                                                                |                          |         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|---------|
| 負傷者                                                                                                    | 年 組 氏名                   | (男・女)   |
| 事故発生日                                                                                                  | 年 月 日 ( )                | 記録者 ( ) |
| 時間                                                                                                     | 内容                       |         |
| :                                                                                                      | 発見時刻                     |         |
|                                                                                                        | (いつ)                     |         |
|                                                                                                        | (どこで)                    |         |
|                                                                                                        | (どうした)                   |         |
| :                                                                                                      | 意識の確認 (あり・なし)            |         |
| :                                                                                                      | 呼吸の確認 (あり・なし) 10秒以内で確認   |         |
| :                                                                                                      | けいれん (あり・なし)             |         |
| :                                                                                                      | 出血 (あり・なし)               |         |
| :                                                                                                      | 外傷 (あり・なし)               |         |
| :                                                                                                      |                          |         |
| :                                                                                                      | 職員の応援依頼                  |         |
| :                                                                                                      | AEDの手配                   |         |
| :                                                                                                      | 119番通報 (通報者: )           |         |
| :                                                                                                      | 保護者連絡(1回目) (連絡者: )       |         |
| :                                                                                                      |                          |         |
| :                                                                                                      | 胸骨圧迫 開始                  |         |
| :                                                                                                      | 人工呼吸 開始                  |         |
| :                                                                                                      |                          |         |
| :                                                                                                      | AED使用 1回目                |         |
| :                                                                                                      | AED使用 2回目                |         |
| :                                                                                                      | AED使用 3回目                |         |
| :                                                                                                      |                          |         |
| :                                                                                                      | 救急車到着                    |         |
| :                                                                                                      | 救急車出発                    |         |
| :                                                                                                      | ( 病院へ)                   |         |
| :                                                                                                      | (救急車同乗者: )               |         |
| :                                                                                                      | 保護者連絡(2回目)搬送病院を連絡(連絡者: ) |         |
| :                                                                                                      |                          |         |
| :                                                                                                      |                          |         |
| <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <span>学校</span> <span>TEL: </span> </div> |                          |         |

緊急時  
チェックリスト

☐ 職員へ応援依頼  
( : )

☐ AED、緊急時  
持ち出し袋の手配  
( : )

☐ 119番通報  
( : )

☐ 保護者連絡  
( : )

☐ 胸骨圧迫  
( : )

☐ AEDを使用  
( : )

☐ 保健調査票の準備  
( : )

☐ 救急車の誘導  
( : )

☐ 生徒の誘導  
( : )

☐ プライバシーの保護  
( : )

（注）調査対象とした学校の提出資料による。



図表 3-9 A教委管内の学校におけるシミュレーション訓練後の検証により判明した課題

| 項目          | シミュレーション訓練を通した課題                                                                                                                             |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| AEDの配置場所    | 事故現場にAEDを運搬するのに時間を要したため、配置場所の見直しを検討する必要がある（8校がAEDの配置場所を職員室から廊下や玄関に変更）。                                                                       |
| 応援要請        | 校内放送で応援要請を行うこととしていたが、実際に行ってみると校内放送では聞こえづらく、分かりにくかった。迅速に多くの教職員を事故現場に集めるため、校内放送以外の応援要請の方法を検討する必要がある。                                           |
| 心肺蘇生・AEDの使用 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AEDの電源を入れないまま服を脱がせたりしていたため、AEDの電源を入れるのが遅かった。</li> <li>・ 女子の場合は、タオルをかけるなどの工夫が必要</li> </ul>           |
| 他の児童生徒対応    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒に教職員の応援要請やAEDの運搬等をさせるかどうか検討する必要がある。</li> <li>・ 児童生徒を事故現場に残したままにすると、動揺するため移動させる必要がある。</li> </ul> |

（注）当局の調査結果による。

図表 3-10 「体育活動時等における事故対応テキスト～A S U K Aモデル～」(さいたま市教育委員会 平成 24 年 9 月 30 日)(抜粋)

### Ⅲ 重大事故発生時における対応

重大事故が発生した場合、教職員は児童生徒の生命及び身体の安全を確保することを最優先し、迅速かつ適切に対応します。

#### (1) 第一発見者としての対応

##### 第一発見者

###### <傷病の状況把握>

- ☐肩を2, 3回やさしく叩きながらの呼びかけやつねるなどの刺激への反応、便尿失禁の有無を確認めます。(意識の確認)
- ☐普段どおりの呼吸をしているか、10秒以内で確認めます。(普段どおりの呼吸の確認)
- ☐反応(意識)及び普段どおりの呼吸について判断がつかないときは、「反応(意識)なし」「普段どおりの呼吸なし」として、行動を開始します。
- ☐倒れた状況を見ていないときには、周囲の児童生徒からその時の状況を聞きます。
- ☐継続的に経過観察を行い、判断に迷った場合は、最悪の場合を想定して行動を進めます。

##### 第一発見者

###### <応援の要請>

- ☐近くの管理職や教職員に、指揮命令者となることを要請します。また、できるだけ多くの教職員に応援を要請します。近くに管理職や教職員がいないときには、児童生徒に、教職員等呼んでくるように指示します。
- ☐反応(意識)がないときには、原則として、傷病者をその場から移動させません。二次被害が想定されるときは移動させます。

##### 第一発見者

###### <心肺蘇生の実施>

- ☐心肺停止が疑われるときは、直ちに胸骨圧迫を行います。
- ☐可能であれば気道を確保して、人工呼吸を2回行います。
  - ・人工呼吸がためられる場合は、人工呼吸を省略し胸骨圧迫を続けます。
- ☐胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返します。
  - ・人工呼吸を省略した場合は、胸骨圧迫を繰り返します。
- ☐AEDが到着したら直ちに、電源を入れ、音声による指示に従います。

## (2) 応援者としての対応

### 指揮命令者（近くにいる管理職又は教職員）

#### ＜応援者への指揮命令＞

- ☐ 応援に駆けつけた教職員に、応急手当等を指示します。
- ☐ 指示した内容が確実に行われているか、報告させます。
- ☐ 指示や報告については、リードバック、ヒアバック（復唱確認）で行います。

### 管理職及び教職員

#### ＜「指揮命令内容チェックシート」による確認＞

- ☐ 応援要請により、現場に到着した管理職等は、「重大事故発生時携行機材（P 5 参照）」のパッケージの中にある「指揮命令内容チェックシート」を用いて、これまでに指揮命令者が行った命令事項について、漏れがないか確認します。
- ☐ その後、指揮命令者を支援します。

## 指揮命令内容チェックシート

- ☐ 傷病者の状況を的確に把握しているか。
- ☐ 心肺蘇生を含む応急手当を継続して行っているか。
- ☐ 応援の要請をしたか。
- ☐ 救急車の要請をしたか。
- ☐ 救急指令センター員による口頭指導を伝達したか。
- ☐ AEDなどの重大事故発生時携行機材を手配したか。
- ☐ AEDの電源を入れ、パッドを装着したか。
- ☐ 保護者に事故概要などを伝えたか。
- ☐ 周囲にいる児童生徒を現場から離れた場所に移動させたか。
- ☐ 救急車の進入路を確保しているか。誘導の準備はできているか。
- ☐ 事故対応について時系列に記録をしているか。

### 養護教諭 等

#### ＜傷病者発生時における判断・行動チャート」による確認＞

- ☐ 「傷病者発生時における判断・行動チャート（P 3 参照）」を用いて、傷病者の状況把握に誤りがないか確認します。

## 教職員

### ＜AEDを含む重大事故発生時携行機材等の手配＞

- ☐ AEDを含む重大事故発生時携行機材等を持って来るよう手配します。
- ☐ AEDの到着後、速やかに傷病者にパッドを装着し、AEDの音声による指示に従います。第一発見者とともに、心肺蘇生法を行います。

## 教職員

### ＜救急車の要請＞

- ☐ 携帯電話を活用することで、救急車要請を迅速に行います。
- ☐ 現在地や傷病者の状況などを救急指令センター員に伝えます。（P 4 参照）
- ☐ 口頭指導を受けたら、指揮命令者に正確に伝えます。

## 教職員

### ＜保護者への連絡＞

- ☐ 保護者へは、重大事故発生時の様子、応急手当を行ったこと、救急車を要請したことなどを正確に伝えます。

## 教職員

### ＜児童生徒の誘導＞

- ☐ 周辺にいる児童生徒を集め、その場から遠ざけます。必要に応じて、教室等に移動させ、動揺を抑えます。

## 教職員

### ＜救急車の誘導＞

- ☐ 救急車の進入路に障害物がないことを確かめ、現場に誘導します。

## 教職員

### ＜児童生徒の状況及び対応の記録＞

- ☐ 口頭指導に対応するための記録及び事故対応の記録を行い、必要に応じて救急隊や医療機関に情報提供を行います。

## 参考 リードバック、ヒアバックの実施

- ☐ リードバック、ヒアバック（復唱確認）を行うことで、応援者は、指揮命令者の指示を正しく受け取れたか否かを確認することができます。また、指揮命令者は、応援者に指示が正しく伝わったことを確認することができます。これにより、指示命令の徹底を図ることができます。

図表 3-11 プールに電話を設置し、迅速な連絡を可能としている取組



(大教大池田小)

内線と外線が使用できる電話をプールに設置

(注) 当局の調査結果による。

図表 3-12 学校保健安全法（抜粋）

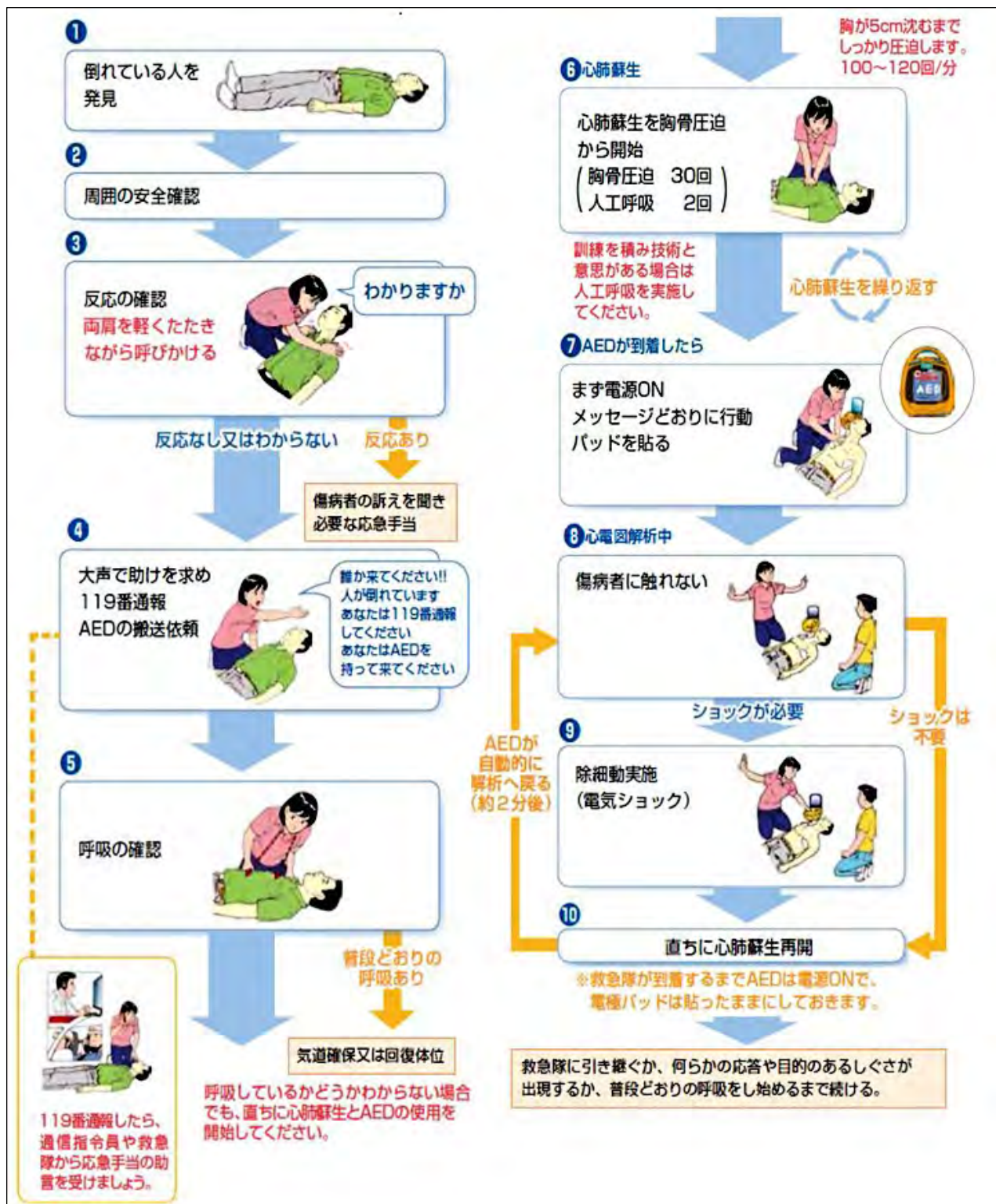
|                                                                                                                                          |  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| （学校安全計画の策定等）                                                                                                                             |  |
| 第二十七条 学校においては、児童生徒等の安全の確保を図るため、当該学校の施設及び設備の安全点検、児童生徒等に対する通学を含めた学校生活その他の日常生活における安全に関する指導、職員の研修その他学校における安全に関する事項について計画を策定し、これを実施しなければならない。 |  |

図表 3-13 「応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」（平成 5 年 5 月 30 日付け消防救第 41 号都道府県知事宛て消防庁次長通知）（抜粋）

| 4 住民に対する普及講習の種類                                                                       |                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 住民に対する標準的な講習は、次に掲げるものとし、そのカリキュラム、講習時間等については別表 1、別表 1 の 2、別表 1 の 3 及び別表 2 のとおりとする。 |                                                                                         |
| 講習の種別                                                                                 | 主な普及項目                                                                                  |
| 普通救命講習                                                                                | I 心肺蘇生法（主に成人を対象）、大出血時の止血法                                                               |
|                                                                                       | II 心肺蘇生法（主に成人を対象）、大出血時の止血法<br>（注）受講対象者によっては、小児、乳児、新生児に対する心肺蘇生法とする。                      |
|                                                                                       | III 心肺蘇生法（主に小児、乳児、新生児を対象）、大出血時の止血法                                                      |
| （以下略）                                                                                 |                                                                                         |
| (2) （略）                                                                               |                                                                                         |
| 別表 1 普通救命講習 I                                                                         |                                                                                         |
| 1 到達目標                                                                                | 1 心肺蘇生法（主に成人を対象）を、救急車が現場到着するのに要する時間程度できる。<br>2 自動体外式除細動器（AED）について理解し、正しく使用できる。<br>3 （略） |
| （中略）                                                                                  |                                                                                         |
| 備考                                                                                    | 1 2 年から 3 年間隔での定期的な再講習を行うこと。<br>2 e-ラーニングを活用した講習や普及時間を分割した講習を可能とする。<br>3 （略）            |
| 別表 1 の 2、別表 1 の 3 及び別表 2 （略）                                                          |                                                                                         |



図表 3-14 心肺蘇生、AEDの使用に関する一般的な研修内容



(注) 東京消防庁のウェブサイトによる。

図表 3-15 調査した学校における実技研修の実施頻度（平成 28 年度以降）

| 開催頻度等                  | 学 校                      |
|------------------------|--------------------------|
| 毎年実施                   | 19 校                     |
| 学校が実施                  | 国立大学附属学校 6 校、明石高専、公立 9 校 |
| 学校が各教員に個別に実施           | 公立 1 校                   |
| 校長会が実施する研修に参加          | 公立 2 校                   |
| 2 年に 1 回、学校で実施         | 1 校（奈良高専）                |
| 定期的に実施していない（29 年度のみ実施） | 1 校（公立 1 校）              |

（注）当局の調査結果による。

図表 3-16 3 年以内に未受講の教員が発生している 12 校における教員の研修受講状況

（単位： 人、％）

| 学校名    | 全教員数 |           | 全教員のうち受講<br>間隔を確認できた<br>教員<br>(a) |           | a のうち 3 年以内に<br>未受講の教員<br>(b) |           | 3 年以内に未受講の<br>教員の割合<br>(b/a) |           |
|--------|------|-----------|-----------------------------------|-----------|-------------------------------|-----------|------------------------------|-----------|
|        |      | うち<br>非常勤 |                                   | うち<br>非常勤 |                               | うち<br>非常勤 |                              | うち<br>非常勤 |
| 奈良高専   | 110  | 35        | 33                                | 1         | 31                            | 1         | 93.9                         | 100.0     |
| 明石高専   | 68   | 6         | 46                                | 0         | 26                            | 0         | 56.5                         | 0         |
| k 高校   | 69   | 12        | 69                                | 12        | 33                            | 9         | 47.8                         | 75.0      |
| 奈女大附属小 | 32   | 14        | 32                                | 14        | 12                            | 12        | 37.5                         | 85.7      |
| 大教大平野中 | 28   | 9         | 28                                | 9         | 9                             | 9         | 32.1                         | 100.0     |
| m 高校   | 54   | 5         | 54                                | 5         | 17                            | 5         | 31.5                         | 100.0     |
| l 高校   | 103  | 21        | 99                                | 17        | 27                            | 7         | 27.3                         | 41.2      |
| 神大中学校  | 66   | 14        | 66                                | 14        | 15                            | 14        | 22.7                         | 100.0     |
| j 中学校  | 51   | 9         | 51                                | 9         | 8                             | 8         | 15.7                         | 88.9      |
| e 小学校  | 30   | 2         | 21                                | 0         | 2                             | 0         | 9.5                          | 0         |
| 神大附属小  | 27   | 6         | 26                                | 5         | 2                             | 2         | 7.7                          | 40.0      |
| 大教大池田小 | 28   | 3         | 28                                | 3         | 2                             | 2         | 7.1                          | 66.7      |
| 合 計    | 666  | 136       | 553                               | 89        | 184                           | 69        | 33.3                         | 77.5      |

（注）当局の調査結果による（令和元年 9 月 30 日時点）。

図表 3-17 3 年以内に未受講の常勤教員が発生している理由

| 学校名  | 理 由                                                                                    |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 奈良高専 | 研修の受講を最優先の業務に位置付けていない。<br>教員は、業務多忙であること、研修時間（3 時間）が長いことから、研修の受講が低調（研修対象者の受講率は約 3％）である。 |
| 明石高専 | 研修の受講を最優先の業務に位置付けていない。<br>教員は、業務多忙のため、受講が低調（研修対象者の受講率は約 30％）である。                       |
| k 高校 | 研修の受講を最優先の業務に位置付けていない。<br>研修は、教員と生徒が合同で実施しているため、生徒と一緒に受講することを敬                         |



|       |                                                                                                                                           |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>遠していると思われる。</p> <p>また、3年に1回の受講を求めているが、教員の受講履歴を管理しておらず、個別に受講指示は行っていない。</p>                                                              |
| 1 高校  | <p>研修の受講を最優先の業務に位置付けていない。</p> <p>教員の中には、①過去に受講したことがある、②授業で心肺蘇生法等を教えているため、受講不要と判断している者がいると思われる。</p>                                        |
| m 高校  | <p>定期的に研修を実施することとしていない（新しいAEDを導入した平成29年度を除き未実施）。</p> <p>心停止事故発生時は、全教員の約3割を占める保健体育科教員及び養護教諭が対応することになり、これらの教員等は、学校外で研修を受講済みと聞いているためである。</p> |
| e 小学校 | <p>校長会主催の研修に各教員を3年に1回参加させるよう求められているが、各教員の受講履歴を把握しておらず、3年に1回の研修対象者から漏れた。</p>                                                               |
| 神大中学校 | <p>3年以内に未受講の教員は、短時間勤務であるため、研修への参加が困難である。</p>                                                                                              |

（注）当局の調査結果による。

図表 3-18 学校による実技研修の開催方法が不適切な事例

|                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>B教委管内の校長会は、毎年、小学校及び中学校の教員を招集し、実技研修を実施している。</p> <p>学校に対しては、各教員が3年に1回のサイクルで参加するよう求めているが、研修の定員は、小学校及び中学校の全教員数の2割程度でしか設定しておらず、さらに、令和元年度の受講者数は、定員の8割程度となっている。</p> <p>B教委は、当該研修の実施方法を校長会に委ねており、研修会の参加者数の設定状況や参加実績等を把握していなかったとしている。</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

（注）当局の調査結果による。

図表 3-19 教員に応急手当普及員の資格を取得させている取組

|                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 大教大</p> <p>児童生徒の安全確保のため、附属学校の全教員に対し、可能な限り応急手当普及員の資格を取得するよう働きかけている。附属学校では、同普及員が実技研修の講師を担当している。</p> |
| <p>2 C教委</p> <p>初めて教頭になる者に応急手当普及員の資格を取得させ、学校の安全管理に関する中心的役割や教員への実技研修の講師を担当させている。</p>                    |
| <p>3 奈女大附属小</p> <p>実技研修の講師を担当させるため、教員に応急手当普及員の資格を取得させている。</p>                                          |

（注）当局の調査結果による。

図表 3-20 「提言 学校での心臓突然死ゼロを目指して」（平成 27 年 1 月 日本循環器学会 A E D 検討委員会）（抜粋）

# 6 児童生徒への救命法教育

以下の 3 つの理由から、救命法は教職員だけでなく児童生徒も学ぶ必要があり、カリキュラムの整っている学校こそがそれを学ぶ絶好の場所である。

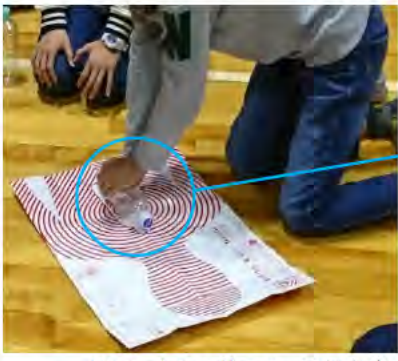
(1) 救命は教師が児童、生徒に対して行うだけとは限らない。学校内の心停止であっても第一発見者は児童・生徒のみの場面も多いはずである。また、心停止に陥るのは児童・生徒のほか、教師や参観中の保護者もありうる。

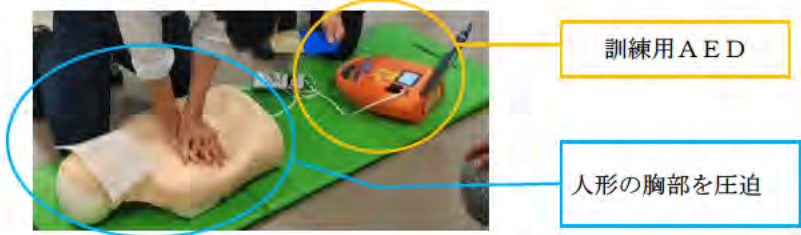
そこで迅速に動けるのは大人とは限らず、子供の方が迅速な対応をとれることもある。

(2) 日本では年間 7 万 5 千人を超える心臓を原因とする心停止が病院外で発生している。学校の内外を問わず、突然の心停止に児童・生徒が適切な対応をとれば、救命に大きな力となる。大規模災害時にも子供達の協力は欠かせない。子供の時期から繰り返し救命法を学ぶことで、成長して社会に出てからも役立つ有用なスキルとして定着させることができる。

(3) (略)

図表 3-21 心肺蘇生等の実技について工夫している取組

| 概 要                             | 実施者    | 内 容                                                                                                                                                           |
|---------------------------------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 多くの生徒が心肺蘇生等の実技を行えるよう簡易な訓練機材等を導入 | 奈女大中学校 | <p>安価で簡易な訓練機材を使用して心肺蘇生（胸骨圧迫）と A E D 使用の実技を実施</p>  <p>※1 セット 1,700 円程度</p> |
|                                 |        | <p>空のペットボトルを使って心肺蘇生（胸骨圧迫）</p>  <p>※シートは 5 枚で 1,700 円程度</p>                |
|                                 | k 高校   | テニスボールを使って心肺蘇生（胸骨圧迫）                                                                                                                                          |

|                           |                                                                                                     |                                         |
|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
|                           | (参考) 一般的な訓練機材<br> |                                         |
| 学校設置者が簡易な訓練機材を導入し、学校に貸出し  | E 教委                                                                                                | ・ 簡易な訓練機材 (80 セット) を希望する学校に貸出し          |
|                           | D 教委                                                                                                | ・ 小学校用に簡易な訓練機材 (40 セット) を導入し、小学校に貸出し    |
| A E D の実技に使用期限切れの電極パッドを活用 | 神大中学校                                                                                               | A E D の実機と使用期限切れの電極パッドを使用し、A E D の実技を実施 |

(注) 当局の調査結果による。

図表 3-22 小学校における救命活動に関する学習内容 (D 教委)

| 救急救命 指導の流れ |                                                                                                                                |                                                                                                                                                                       |                        |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 項 目        | 学習テーマ                                                                                                                          | 学習内容                                                                                                                                                                  | DVD                    |
| 導 入        | メッセージビデオから命の大切さを考える                                                                                                            | ・ 人が亡くなるということを考える                                                                                                                                                     | メッセージビデオ               |
| 今日学ぶこと     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心停止って？</li> <li>・ 人が倒れていたら？</li> <li>・ 胸骨圧迫(心臓マッサージ)</li> <li>・ AED ってなあに？</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心臓の動きと位置を知る</li> <li>・ 心停止の意味と心肺蘇生と AED の必要性を知る</li> </ul>                                                                   | 1 ②③④⑤⑥<br>⑦⑧          |
| 練習と体験      | 119 番と AED の要請                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大声で助けを求める</li> <li>・ 119 番通報と AED を要請する</li> </ul>                                                                           | ⑨                      |
|            | あっぱくんの説明                                                                                                                       |                                                                                                                                                                       | ⑩                      |
|            | 心停止の認識                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 突然死の実態(人数等)</li> <li>・ 呼吸を確認し、心停止の判断をする</li> <li>・ 死戦期呼吸は心停止と判断することを知る</li> </ul>                                            | ⑪⑫⑬ 第 1 話<br>⑭⑮⑯ 第 2 話 |
|            | 胸骨圧迫<br>(心臓マッサージ)                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胸骨の位置を知る</li> <li>・ 胸骨圧迫の必要性を理解する</li> <li>・ 正しい胸骨圧迫の方法を知り体験する</li> <li>・ 胸骨圧迫の交代の方法を知り交代する</li> </ul>                       | ⑰⑱⑲                    |
|            | AED<br>(自動体外式除細動器)                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AED の正しい使い方を知り体験すること</li> <li>・ AED を用いた一連の流れ</li> </ul>                                                                     | ⑳㉑㉒㉓<br>第 3 話          |
| まとめ        | 学習のまとめ                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に心停止に遭遇した時の注意事項<br/>1 安全確認 ②助けを呼ぶ 119 番通報と AED 要請</li> <li>・ 実際には救助できないこともある。ストレスを感じたら相談してほしい。結果に責任は問われないことを伝える</li> </ul> | ㉔㉕㉖㉗㉘                  |

(注) D 教委の提出資料による。



図表 4-1 「AEDの適正配置に関するガイドライン」（抜粋）

## 2. AED設置が求められる施設

### 【AEDの設置が推奨される施設（例）】

①～⑧ （略）

⑨ 学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、専門学校等）

学校における心停止は、児童・生徒等に限らず、教職員、地域住民などの成人も含め一定頻度発生している。

（略）

学校における突然の心停止の多くは、体育の授業やクラブ活動で、ランニングや、水泳など、運動負荷中に発生しており、運動場やプール、体育館のそばなど、発生のリスクの高い場所からのアクセスを考慮する必要がある。さらに、施設が生徒や住民に開放されている土日祝日や夜間でも、こうした運動場、体育館や学童保育で使えるように配慮することが望ましい。

## 3. AEDの施設内での配置方法

(1) （略）

(2) AEDの配置場所が容易に把握できるように施設の見やすい場所に配置し、位置を示す掲示、あるいは位置案内のサインボードなどを適切に掲示することが求められる。

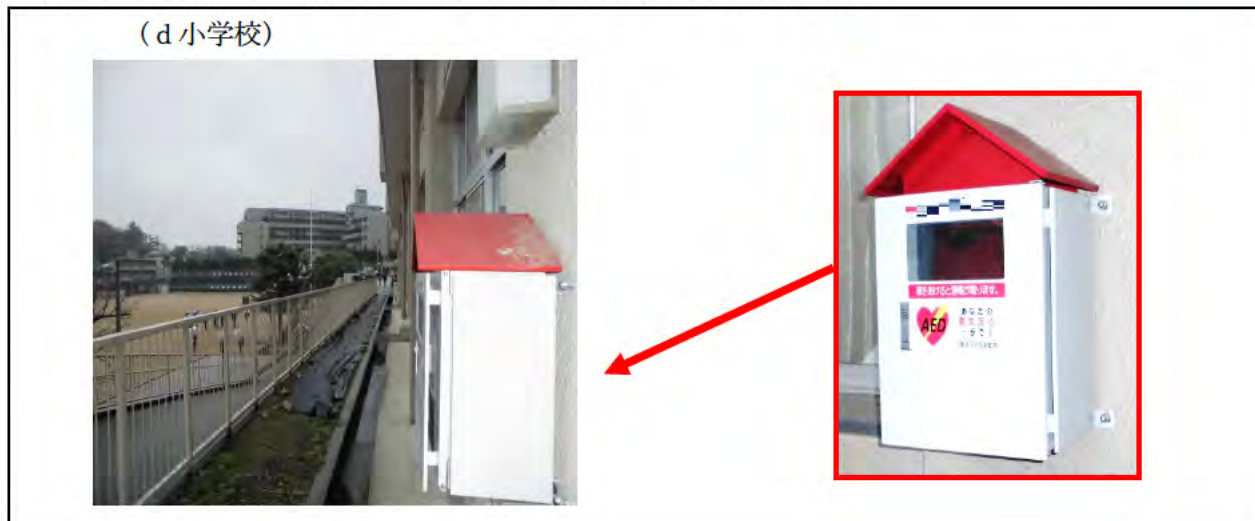
図表 4-2 財団全国AEDマップ

例：職員に声をかけて下さい・施設内への来客・学校行事の参加者等

「財団全国AEDマップ掲載イメージ」

財団全国AEDマップでピンを選択した時、下図のような吹出しが表示され、「市民(外部の方)の使用する条件」をご入力頂いた場合には、条件が表示されます。

図表 4-3 夜間休日にも使用できるよう AED を屋外に移設した取組



(注) 当局の調査結果による。

図表 4-4 校内案内図に AED の配置場所を表示している取組



(注) 1 当局の調査結果による。  
2 写真上の丸印は当局が付した。

学校における救命活動に関する調査 ―A E Dの使用を中心として―  
結果報告書（令和 2 年 3 月）

総務省 近畿管区行政評価局  
評価監視部 第 5 評価監視官室

〒540-8533

大阪府中央区大手前 4-1-67 大阪合同庁舎第 2 号館

電話：06-6941-8761

E-mail：knk13@soumu.go.jp